

生活でぎる仕事がほしい！

「ハローワーク大阪西」前で声拾う

「三十二年続けた製鉄の仕事を会社の都合で辞めさせられた」「今の企業は利益や効率ばかりで社員の幸福など眼中にない」「国は無駄を削って生活に役立つ所へ回して」。次々と飛び出す不安や憤りの声。四年前のリーマンショック以降の不況の「深止まり」で港区にも失業者が溢れています。十二月に入り、南市岡二丁目のハローワーク大阪西（大阪西公共職業安定所）で職を求める人たちの表情には「待ったなし」の切迫感がありました。

「利益第一おかしい」「政治に期待しない」「国は実質的施策を」

衆院選が公示された十二月四日、求職活動に訪れた人たちに事情を訊きました。

◆2級建築士の資格を生かせない

浪速区から来た四十代の一人暮らし男性は、

二級建築士の資格を持っていますが、半年ほど勤めた建設会社には健康保険も厚生年金もなく「約束が違つ」と九月末に辞めました。「雇用保

険が切れる一年先までに何とか見つけたいと

通っています。資格を生かせる仕事があればですが、建設業はこも不況で仕事がありません。

これだけ失業が溢れているのは不景気だから仕方ないと思いますが、少子高齢化など社会

の構造そのものに大きな問題があるような気がします。政治にはほとんど期待していません」。

◆希望の持てない社会

大正区から来た二十代の一人暮らし女性は、営業事務の仕事で十年続けた後、「もったいない案件の職場へ」と十月に退職しました。「前と同じ事務系統の仕事を探しています。不況や失業の原因は良く判りませんが、とにかく希望の持てない世の中です。職業選択の自由が謳われていますが、自分に合った仕事がない現状では絵に描いた餅。選挙が始まりましたが、政治や政治家には全期待していません」。

◆愛着ある仕事に就きたいが

大正区から来た四十九歳の一人暮らし男性は、十八歳から三十二年間、製鉄所の生産ラインのオペレーターとして働いてきましたが、不況で希望退職を募られ、十月末に退職。「求職者支援制度」(昨年十月発足)を利用して、月十万円の給付金を受けながら講習や訓練(六カ月)に通い、一カ月経過しました。「できれば経験も愛着もある仕事に就きたいと応募していますが、生産関係はどれも不況で断られ続けています」。

「不況の深まり」で港区にも失業者が溢れている(写真左は師走のハローワーク)

大阪西で職を求める人たち



まず年齢ではねられますね。「これも自由競争や市場原理だから仕方ないとは思いますが、政治には問題が多すぎます。自由やその揚げ足取りばかり熱心で、実質的なことは何もしてくれません。選挙には全く期待していません」。

第一、政治家が多すぎます」。

◆柔道整復師の資格生かしたい

中央区から来た三十八歳男性は、柔道整復師の資格を持ち、整体院に十年ほど勤めていたが、「この給料では家族を養えない」と十月末に退職しました。「先日、子供が生まれ、七歳三歳と併せて三人の子持ちになりました。雇用保険は三カ月しかないので焦っています。この仕事は好きだし、自分にはこれしかないので、資格を生かして少しでもいい条件の所へと思っています。民主党は子ども手当を作ってくれ、助かっていましたが、結局流されてしまいました。不況の原因とかはよく判りませんが、無駄を削ればそういう方面へ回せると思います」。

◆貯金くすしながら生活

港区から来た三十代男性は親兄弟と暮らしていますが、誰も職がなく、これまで製造関係を中心に六カ所ほどの職場で働いてきましたが、長続きせず、最後に辞めた会社は在職期間が短かったので雇用保険もないということでした。「貯金を崩しながら生活していますが、それも限界があり、不安で堪りません。家族の生死が

自分の肩にかかっているので一日も早く仕事を
見つけたいです。今の企業は利益や効率ばかり
追って社員の幸せなど眼中にないのでは。あれ
これの失敗というよりも、こんなところに今の
不況の根本原因があるのではないのでしょうか」。

◆雇用保険切れ、仕事なご何でも

西区から来た二十一歳の一人暮らし女性は、
工場で四年間働いてきましたが、知人から「一
緒に会社を作ろう」と誘われて四月末に退職。

しかし業務内容がまでもでなく、空中分解し
たので、やむなく雇用保険を受けながら求職中。
「子供が好きなので保育などの仕事に就けたら
嬉しいのですが、資格がないので難しいみたい。
雇用保険が今月で切れるので、仕事なら何でも
いいと思っています。自分の事に精一杯で、社
会的な原因とか考える余裕はありません」。

◆徐々に改善も厳しく

「いつした最近の求職・求人状況について、港
区、西区、浪速区、大正区、中央区（一部）を
管轄エリアとするハローワーク大阪西の小松博
業務部長は要次のように話してくれました。

①リーマンショックで急激に厳しくなった求

職状況はその後徐々に改善され、東日本大震災
で一時落ち込んだものの、再び改善の傾向を見
せている。具体的には、大阪府の有効求人倍率
は平成十八年度の一・二五が二十一年度には
〇・四七まで落ち込み、その後、徐々に回復し
て、二十四年十月には〇・八〇になった。

②職業別では、保安・自動車運転・電気・薬
剤師・看護師・医療技術などで人手不足があり、
一般事務・製造などでは求人不足—というのが
十月時点での状況だ。

③失職の原因では、リーマンショック直後に
は事業主都合が非常に増えたが、今では自己都
合の方が多くなり、大阪府の最近の統計では自
己都合が約六〇％、事業主都合が約二〇％だ。

④年齢別では四十五歳以下の就職割合が約六
割に対し、四十五歳以上は約四割となっている。

◆「面接会」などで就職支援

「いつした厳しい求職状況に対してハローワー
クでは個別支援を中心に様々な対策を講じてい
ますが、主に次のようなものがあります。

①仕事帰りや土・日・祝日にも利用できる「ハ
ローワークプラザ難波」を開設（地下鉄なんば

駅24号出口、☎六二四・九二〇〇）。

②女性のための職安「大阪レディース&マ
ーズハローワーク」をハローワークプラザ難波
内に開設（☎七六五・二一〇九）。

③昨秋発足の「求職者支援制度」の対象者（雇
用保険を受給できない失業者など）に就職支援。

④履歴書や面接などについて指導する「再就
職支援セミナー」をそれぞれ月二回ほど実施。

⑤書類選考が多い現状を改善するため「人物
を見てほしい」と企業に要請。

⑥区民センターなどで「面接会」を実施。一月
二十五日（月）十・十五時に港区民センターで
障害者を対象とした面接会を予定。

⑦パソコンが苦手な中高年のための旧来のフ
ァイル式閲覧スペースを存続。



求職者に共通していたのは、①意欲も能力も
あるのに職が得られない②失業が溢れる直接の
原因や対策がよく分からない③しかし政治には
全く期待していない—ということでした。戦後
六十七年、社会の根本的な在り方こそが問われ
ていると改めて感じられた取材でした。

あさやけ

三先出身の歌手・香西かおりさんが五年ぶりにNHK「紅白歌合戦」出場を決めました。通算出場十八回は第一線歌手の中でもトップクラス。港区民として嬉しい知らせでした▼振り返れば彼女には九七年と〇九年にインタビュでしたが、その二回目の取材で印象に残った言葉があります。自分の性格を「楽天的」と答える中で出てきた「今日のことは今日で終わりの。否々なところのある親からのDNAが、芸能界の荒波に揉まれながら、そんな境地へと辿り着かせたようでした」似た言葉に映画『風と共に去りぬ』の「明日は明日の風が吹く」があります。かおりが投げやりな「ユアンスもある」明日は「」に対して「今日の」にはさっぱりとした潔さが感じられ、「ええ言葉やなあ」と感心したものでした▼以来、筆者自身も折に触れては思い出し、何かの壁に直面した時、また忙しさに振の回されそうな時などに適用してきましたが、その御利益は思った以上でした▼確か

に、明日の投票口を前に言つのも憚られますが、選挙などある度に悪へ悪へと向かうこの世でぐへら将来を心配しても限のないこと。それより「今日のことは今日で終わりの」ユタリリセリットした方が、よほど精神を健全に保てるでしょう。もちろん、そんな社会を変えるための努力や協働は必要ですが、その中でも思いにメリハリをつけなければ、そんな運動自体も疲れ果ててしまつのではないのでしょうか▼まもなく大晦日。「今年のことば今年で終わりの」と心の区切りをつけながら、紅白では、民謡仕込み、格調高雅な香西節を楽しむようにしましょう。

× × × × ×

「カルガモ連合艦隊」は美に汁観でした。先日、雨模様の中を妻と訪れた岸和田城のお濠。話し声に「お、何が賣えるカモ」と期待したのか、遠くに浮かんでいた幾つもの群わが一斉に寄つて来たのです。その姿の何と可愛くも整然たること！夫々のリーダーを先頭に数羽が綺麗な波線を左右対称に広げながらの見事な三角編隊。やがて傍まで来たものの「何れ何れくれなわ、ほな帰るか」とリーダーが囁いた

のかどつか、ぐへらと向きを変え、編成を維持したまま元の水域へ▼と、やや離れた石垣の下で魚を狙っていた白鷺に、飛来した別の一羽が襲いかかりました。「ギャン」「ギャン」と叫ぶ声を挙げながらの空中戦は一瞬で決着が付き、一羽はどこかへ飛び去ってしまいました▼僅か五分間に起きた鳥たちのドラマ。片や小さき数は健気に肩寄せ合い、片や一匹狼どつしは縄張り争い。人間社会の縮図を見たようでした。尤も、職も食もまともに得られない今は必ずしもそうは言えません。むしろ弱者がいつし競わされながら、国家や資本家の争いに行き着いていゝ、と言つた方が適切でしょう▼それはさておき「遠征」が徒勞に終わり、また水面が暫し荒立ったにも拘らず、カルガモたちは何事もなかったようにのんびりと、しかし今度は一羽一羽が思い思いに遊泳しています。集中と弛緩の鮮やかな使い分け！「字がうとは多いぞ」..。感心していると、遠くから声がしました。「何してんねん 早上次(の)目的地へ行かな雨降って来るがな」「わ、わかった。どうもカルガモからは集中を望まなめかなよつて..。

港区らしい街づくりへ

区政会議で論議深まる

「区政や区の事業について意見を述べ、評価する」というを目的に昨年七月発足した「港区区政会議」（武智虎義委員長）の全体会議が十一月十一日、港区役所で開かれ、委員三十三人と区役所の担当者らが出席しました。三回目。同会議は公募、団体推薦、区長推薦の各委員から成り、現在の委員数は四十五。任期は二年。港区にふさわしい街づくりに向けて「子ども青少年」「防災」「防犯」「福祉」の四部会を設置。

◆各部会が活動報告

会合ではまず各部会から第一回（九月）以降の活動が報告されました。

このうち防災部会からは「防災マップを改善して」「マンション内での下層階から上層階への避難体制づくり」「一層の支援を」などの意見があったことが報告され、担当課から「今年度中に発行する地域別マップには一時避難ビルと避難収容施設を混同しないよう区別して載せる」

「下層階から上層階への避難を行なうマンション」に対する物資などの支援は予算内で実施する」などの対応が示されました。

防犯部会からは「子ども一〇番のステッカーを作ったらどうか」「安全マップづくりを全校下で実施すべき」などの意見があったことが報告され、担当課から「二一〇番ステッカーを今年度予算で作成する」「安全マップづくりは来年度中に全校下で実施することになる」などの対応が示されました。

福祉部会からは「認知症の増加などに対応できるよう精神科の誘致を」「発達障害児の保護者どうしが話し合える場を」などの意見があったことが報告され、担当課から「認知症の増加には医師会などと連携して取り組む」「発達障害児の保護者を支援する仕組みづくりを検討する」などの対応が示されました。

子ども青少年部会からは「学校選択制への全保護者アンケートを実施したが、慎重論が根強かった」などの現状や、「学校選択制では教育委員会から指定外就学（いわゆる越境通学）の基準の拡大が新たに提案された」ことなどが報



→港区らしい街づくりへ論議が深められた
港区区政会議の全体会議＝11月12日

告され、担当課や区長から「学校選択制を平成二十八年度からやるかどうかを区長が決めるが、その前に指定外就学も含めたアンケートをできれば実施したい」などの対応が示されました。

◆区長が「将来ビジョン」を示す

①のあひ田端区長が「港区将来ビジョン」の叩き台を提示。その柱として「区民主体」「安全・安心・快適」など五点を挙げる。共に「福祉的な問題を抱える児童・生徒の家庭を支援する専任カウンセラーの設置」「港区ブランドの認定PR」など具体的な検討課題も示しました。

区長はさらに、来年度から実施される「一括補助制度」のあり方について「これまでは各部署が事業ごとに補助金を交付していたが、今後一括して『地域活動協議会』へ交付するものになる」と説明しました。

◆市バス事業の見直しを報告

また市バス事業については担当課長が、①地域サービス系路線（民間並みコストでも採算をとるのが難しい路線）は平成二十八年三月末で全て一日廃止される②このうち赤バスは来年三月末で廃止される③廃止で生ずる空白地域を

どうするかは区長が決めるが、必要と判断した場合は民間に委託する④港区として必要と考える路線案を作ったので意見を聴かせてほしい⑤赤バスだけが廃止される来年度をどうするかは区長を中心に検討中—などと見直し内容を説明。

①のうち特に⑥については区長が「一年の空白ができるのはどうかと思う。特に池島・八幡屋など地下鉄駅などから遠いエリアについては何らかの形でフォローしたい」と述べ、区内の赤バス廃止に伴う対策の可能性を示唆しました。

◆赤バスなど委員から意見

以上の報告や提示を受けて主に次のようなやり取りがありました（↓の後は委員からの意見、↓の後は区役所担当などからの回答）。

→子ども一〇番の旗の設置は「何のために」「どうく」をはっきりさせるべき↓設置先は全て把握している。その上で、より安全な所への設置を進めたい

↓弁天町駅前交差点に横断歩道は考えられないが、↓交通量を規制すれば可能かもしれないが、港警署からは「現状では不可能」と聴いている（区長）

↓学校選択制はいついつごろから提案されたのか↓①市長公約を具体化する②保護者や子どもが学校の選択の自由を保証する—などの観点から提起された（区長）

↓赤バスは便利だが反対方向のルートがないので困る↓一周七十分を三十分にして定時運行を可能にするなどの改善案が出ているが、今後民間事業者に委託する中でも良いアイデアが出るかもしれない（区長）↓ピストン方式にしたかどうか↓それも含めて検討していく（区長）

◆今後の刺激になった

会合の後、公募委員の瓜生由美さんと（港区子ども会育成連合会会長・子ども青少年部会委員）は「私たちの部会では、学校選択制や中学校給食についての全保護者アンケートを実施するなど、区としての方向を出すための土台づくりは果たしたのではないかと思っています。今日は他の部会の報告や意見を聞いて、議論の深まりを感じると共に、皆さんが本当に真剣に港区のまちづくりを考えておられることを改めて感じました。今後の部会活動への強い刺激になりました」と話していました。

災害に強い街へ

区政会議 防災部会で計画づくり



→港区にふさわしい防災計画づくりへ議論

が深められた港区区政会議・第4回防災

部会＝11月29日夜、港区役所内

「港区にふさわしい防災計画の策定を」と港

区政会議（5頁に記事）の防災部会（野村好孝
部会長）が十一月二十九日夜、港区役所で開か

れました。四回目。委員十三人（うち公募委員
七人、団体推薦委員五人、区長推薦委員一人

のうち八人と区役所の担当、関係機関の担当
者らが出席、地域防災計画の年度内策定に向け
て議論が深められました。

◆予算案など区役所が提案

会合ではまず来年度の「港区運営方針（素案）」
から防災関連を抜き出している説明が担当課長か
ら行なわれ、この中で、①図上訓練ができる防
災リーダーやジュニア防災リーダーの養成など
に二二万三千円②マンションと地域の相互応
援体制づくりなどに四〇万円③マンション低層
階から高層階への避難体制づくりへの支援など
に四〇万円などの予算案が示されました。

また「港区防災計画」の骨子も提案され、こ
の中で、①企業や医師会・薬剤師会への協力要
請②津波避難ビル協定の促進③収容避難施設へ
の誘導掲示板に海拔を表示④復旧段階でのガ
ス・電気などライフライン関係機関との連携一

などの対策・計画案が示されました。

これらを元に、主に次のようなやり取りがあ
りました（↓の後は委員からの意見、↓の後は
区役所担当などからの回答や意見）。

◆マンションの取り組みに支援を

↓防災計画の予算化に大賛成。その上で、う
ちのマンションでは低層階から高層階への避難
訓練を重ね、避難マニュアルの作成も予定して
いるが、これらに対して区から援助をしてもら
えるのか↓食料などは難しいが、拒否や簡易ト
イレ購入などには支援を検討している

◆客観的な防災データの提示を

↓防災は意気込みだけではできない。取り組
みの前提として地域の長所・短所を明らかにす
べき。「港区防災計画」の中に防潮堤の総延長や
防潮扉の電動化率などの客観的データを表示
すべきではないか↓関連機関と相談しながら入
れることを検討している

◆先進的な取り組みを広く

↓南市圏では学習参観日を利用して四年生以
上に保護者も加えて防災訓練をし、町会ごとに
集まることで顔見知りにもなっている↓中学生

を防災の担い手に養成しようと考えている中で、素晴らしい取り組み。広く紹介していきたい

↓「広報みなど」が届かない世帯があり、町会やネットワーク委員会でも配布したらという意見も出ている。来年度から業者による全戸配布ができるよう予算を要求している

◆防災リーダー入選の再検討を

↓人材育成には賛成だが、うちのマンションでは防災リーダーが訓練に出て来ないし個人情報報を盾に氏名も公表されない。どんな仕組みで推薦・選出されるのか。広く人材を求めるため公募制を考へてはどうか。町会長の個人的な考えで入選している所もある。区役所からは推薦していない。地域の中で選ぶことが大事。町会が人選するのはいいとしても、全員に諮^{はか}られていないのが問題。そんな地域から上がってきたものを区役所が登録するだけというのは機械的だ。選出をオープンにするよう指導すべきではないか。↓地域の実情は地域が一番よく知っている。人選は地域にお任せせざるを得ない(区長) ↓それならうちのマンションで積極的行動している防災委員十数人を防災リーダーとして連合

町会が認めればOKということか。↓連合町会の対応次第だ。↓連合町会長が拒否したら異議申し立てできるのか。区役所から進言してもらええるのか。↓磯路では防災リーダーの名簿を公表しているし、その主導で訓練なども田滑に行なわれている。(このように)がっちりやっている地域もある。連合町会会長会議でこの問題を整理する。よう区役所から勧めてもらえないか。↓長く地域で続いていたシステムだが、地域によって差があるようだ(区長) ↓防災リーダーの位置づけを確立し、全ての区民に見える形にしたい。この問題は解決しないだろう

◆地域活動協議会とは何か

↓(防災リーダーの入選に関連して)来年度から「地域活動協議会」といつ、会計や人事など全てオープンなシステムが作られるが、その中で地域ごとの新しい防災体制も作れたらと考えている(区長) ↓「地域活動協議会」とは何か。↓まだ港区ではできていない。これまで個別の課題ごとの活動や予算だったが、来年度からは地域全体の話し合いで総合的・自律的に地域活動を進めるためのもの。この中から地域ご

との防災部会的なものも作られていくだろう

◆関係機関から助言・要請

↓何十年もかかって出来なかったもの(「地域の防災体制」が出来ようとしていることは重要。大変だが、できるだけ具体的な計画が作られるよう協力したい(大阪市危機管理室)

↓災害に強い街にするため「寄付型自動販売機」(売上から一本当たり五円が災害ボランティア育成や災害救助用品備蓄に回される)の設置を進めているので協力を(港区社会福祉協議会)

◆障害者対策を深めたい

会合の後、防災部会委員の一人、菱川幹人さん(港区障がい者地域自立支援協議会委員長代理、団体推薦委員)は「これまでの議論から(防災の土台である)地域の繋がり、ネットワークの大切さを痛感しました。これからは防災計画づくりに向けて(特に自分の関わる)障がい者対策を充実させる方向で議論に参加していきたい」と話していました。

なお今回までの議論内容は今後の部会やパブリックコメントなどによる調整を経て三月に「港区防災計画」として確定される予定です。

企業もやりまっせ！

清掃で地域貢献、70人参加



「我が街を綺麗に」で集合した港区企業まちづくり交流会メンバー 11月21日

「我が街を少しでも綺麗に」「企業もやりまっせ」と十一月二十一日朝、JR弁天町駅周辺で一斉清掃が行なわれました。港区の企業・事業所の交流の場として昨年発足した「港区企業まちづくり交流会」が「大阪マラソン グリーンUP」作戦の一環として取り組んだもの。前田機械㈱（市岡元町）、太和木材㈱（磯路）、久ハシエイピー㈱（田中）など二十企業・事業所から七十人が参加しました。

午前八時に集合した参加者は軍手をはめ、ポリ袋とゴミ鉗（さし）を持って駅周辺へ散らばり、一時間、路上や植込みの紙屑や空き缶、吸い殻（がら）捨てガムなどを集めて回りました。終了時には集合場所にゴミ袋が山積みになっていました。

◆アピールは良いジョ

参加者の一人、丸田満正さん（六九）は市岡の丸田産業㈱（採石プラント・リサイクルプラントの設計・製造）の経営者。「この辺はまだゴミが少ないのですが、裏通りは汚く、中学生が公園で遊んだあとの始末をしないのも気になります。昔のように近隣で一緒に掃除するところがなくなったので、こうしてアピールするの

←港区企業まちづくり交流会が取り組んだJR弁天町駅周辺清掃活動への参加者（写真）

上は丸田満正さん 下は田端尚伸・港区長



はスス（ご）ですね。」

坂本成昭さん（六八）は築港の昭陽汽船㈱（タグボート運航など）の営業部長。「副社長と一緒に参加しました。こうした活動を時間的にも面的に広げていくことが大切です。うちの会社のある築港は外国からの訪問も多いので、地元企業として美化活動などに参加しています。」

数本修さんは弁天の㈱リアライズ（総合保険代理業）の代表取締役。「大きな物ではカートなども放置されていて驚きました。港区を中心に仕事しているので、その街が少しでも綺麗になればと参加しました。企業は自社の経営だけでなく、こうした地域貢献にも力を注ぐことが大切だと思います」と話していました。

非常事態に備えて 絵を描こう

(池島一・勝部泰臣79歳)

「時の絵を描け」。迷い狂って放浪の時、安^{さかば}酒場で知り合った老人の言葉。忘れられない。「港区区政会議・防災部会」の記事(前頁6頁)に主な発言を漏らす詳細に記録され素晴らしい。この中での区長の言葉にもあるが、まず自^{みづか}助、そして地域の隣組や班単位の共助、最後に公助。これに尽きる。地震直後(いつ)いつ行動をするか、その時(いつ)にいつの状態で本人がいるか、周囲の環境はどうか、あらゆる場面が想定されるが、常口頭から頭の中で絵を描いておへうだ。集団の訓練を重ねながら、絵を描き続け、東日本大震災という非常時にその絵の通りに実行し、全員無事避難した。中学校はその典型、模範である。まず個人として何をいつするか、そして班で、町会で、町会連合で助ける。このルールを基本に、各地域で地形や建物がそれぞれ異なる中、各々の絵を描いておく。忘れた頃にやってくるその日(いつ)から備えよう。

赤バス問題から行政の原点考えた

(波除・60代男性)

『赤バス廃止撤回をー』(前トツプ記事)を読みました。それまでは「いつも空で走らせているのは税金の無駄遣い」と思っていました。が、記事に「採算が悪くても市の助成によって支える『福祉バス』としてスタートした」とあるのを見て見方が変わり、「それなら利用者が少なくても、必要とする人たちがいる限り、走らせるのは当然」と思いました。考えてみれば、そもそも行政というのは採算ではなく、国民や市民の必要からなされるもの。もちろん税金の無駄遣いはいけませんが、本当に役に立ち、喜ばれている制度であれば、無理をしても続けるべきです。鉄道も郵便も、明治時代の初めに「国民の生活が便利になるように」と願って政府が国の隅々まで張り巡らせたと言っています。もし採算を第一に考えていたら、そんなことはできなかったはずです。ですから国も市も「サービス」などという言葉を軽々しく使わず、もつ一度行政の原点に帰るべきだと思います。

その原点というのは、役所と私たちが、ギブ・

アンド・テイク(世知辛いニユアンスがあり、好きではありませんが)ではなく、力を合わせてみんなが幸福な社会を築いていくことではないでしょうか。赤バス問題からこんなことを考えてしまいましたが、港新聞読者の皆さんはぜひお考えでしょう。知りたいです。

頭下がる防災論議 報道について

(二先・60代男性)

防災についての二つの記事(前頁6、9頁)を読み、港区でも非常に熱心に防災の取り組みがされていることに頭の下がる思いでした。特に区政会議の防災部会での論議は実に細かくなまで話しかかれていて、参加されている委員の方々の真剣さが伝わってきました。また区長をはじめ担当の区役所職員への対応ぶりも懇切丁寧で、市民協働とはいっていることなんかと目を開かされる思いでした。区政会議の、しかも防災という重要な分野の取り組みを詳細に知れる記事は貴重です。これから、直接参加できない区民に代わって、報道を続けていただ

きたいと思っています。

障害者が社会活動続けられるよう

(弁大・40代女性)

「外出時に少しでも報酬があればヘルパーを利用できない」といつMさんの悩みを取り上げた記事(前号10頁)に、「何のための障害者自立支援法なのか」「何のための福祉行政なのか」と考えさせられました。こんな問題があること自体知りませんでした。ヘルパーを利用するMさんだけでなく、ヘルパーを派遣する介護事業所も困っているというのは、明らかに法律の欠



↑障害者の作品から拝借します

(市岡元町3)の絵手紙

陥です。であれば、すぐに改めるとか、窓口で弾力的に(柔軟に)運用するとか、何とかなかないものでしょうか。生きがいともなっている社会活動を「続けられるよう条件をきえてほしい」と声を上げたMさん。ぜひ頑張ってください。困っている障害者や事業所の突破口になつてほしいと期待しています。

「ねこサポーター」に後押しを

(市岡・60代女性)

動物と共生できる街にするために「野良猫の避妊・去勢手術のための基金を作ってください」と市民グループが大阪市に要求したという記事(前号13頁)を読んで。私も猫が好きで、できれば「公園ねこサポーター」として活動したい気持ちはあるのですが、この記事で問題にされていたように、やはり、色々と制約や負担があり、参加は難しく感じています。特に重く感じるのは避妊・去勢手術費用の自己負担です。

市が半額を助成してくれるのはありがたいですが、それでも一匹当たり五千円が何匹もとなると、主婦にとっては大変な負担です。それを承

知でねこサポーターになっておられる尾崎キミ子さんたちの熱意には本当に頭が下がります。それだけに、そんな方たちの自己犠牲的な活動を後押ししてあげるためにも、「基金」の設立は絶対必要だと思います。

「さんま祭り」に老人ハッピーを感じた

(港晴・40代女性)

「東北産の秋刀魚を食べる東日本大震災の被災地復興を支援しよう」と「さんま祭り」が開かれたという記事(前号18頁)を読んで。当日の活気が感じられ、港区老人クラブ連合会の、ということとはつまり、港区の老人の皆さんの熱情でハッピーはすごいと思いました。暑い中、ビールで楽しまれた人も多かったようですが、六百五十尾も焼くのはさぞ大変だっただろうと思います。写真からも被災地支援の気持が伝わってきて、とても楽しく温かい記事でした。

港中の「文化発表会」に感動

(池島・40代女性)

港中学校の文化発表会の記事(前号23頁)

は、仕事の都合で鑑賞に行けなかった私（二年生男子の母親です）としては、とてもありがたかったです。戦争体験の聴き取りや職場体験発表、手づくり絵本の展示や国しらべなど、とても具体的に丁寧（ていねい）に紹介されていて、私が直接見に行くより良かったかも……など大変な感心をしていました。それにしても、こうして、多分いいところ取りとはいえ、記事になると、港中の生徒の真面目さ、レベルの高さが改めて分かり、感動しました。一保護者として心から感謝します。来年も取材をお願いしたい。うちの子が最後なのでけれど、厚かましいでしょうか。

……
楽しかった運動会が随った！

（波除・30代女性）

「あんなにこの子が写ってるよ」と言われて港新聞（十一月号冊子版）を購入しましたが、「秋空に笑顔弾けたー」の見出しがそのままの、本当に元気で楽しい運動会でした（前号24頁）。当日の様子が詳しく書かれ、インタビュールされた方の感想には「その通りー」と思いました。当日は私もお手伝いしましたが、そんな裏方の

様子にも目を留めて頂き、温かい記事だと思いました。近所の友人家族にも見せてあげました。感動を随らせて頂き、感謝しています。

社会に目向けたライプ素晴について

（磯路・40代男性）

「平和叫んで何が悪いー」（前号29頁）の若者たちの正義感とパワーに感服しました。叫びの内容が、みな真面目で、今の世の中の矛盾を突いています。個人的な感情を吐き出すライプは山ほどありますが、このように社会に目を向けたライプの方が、もっと素晴らしいと思いました。ある医療関係の男性の「戦争がないだけでなく、安心して豊かに生きられてこそ平和。今の日本は原発も社会保障も嘘ばかりだ」という発言が特に心に残りました。

千賀さんの戦争体験に感謝

（池島・50代女性）

「故国へ決死の逃避行」と題した千賀万里子さんの戦争体験談（前号36頁）が心に残りました。十二歳という思春期でのこのような過酷

な体験が、その後の人間形成にどのような影響を及ぼしたのか、想像が付きませんが、今の私としては「本当に苦勞なままでした」としか言えようがありません。それにしても、恐怖と苦勞の末に三十八度線を越えられた時の安心感、言葉にできなかったほどだったのって思われます。貴重な体験に心から感謝すると共に、地域新聞として毎月このような記事を掲載し続ける港新聞さんの姿勢にも「頑張っー」とエールを贈りたいと思います。

隠岐島の暮らし浮かび懐かしい

（久田・50代男性）

「ひるまじい」の話をしよう（110月号）から連載がとても楽しみです。家族で力合わせて生活したい。四季の遊びがあったこと、海で終日遊んだこと、シャープ船の風習等々、隠岐島の昔の暮らしが目に見えます。今は失われたある生活面での子供の苦勞や遊びの工夫がここにはあったのだと思つて、自分には遠い時間と場所なのに、なぜか懐かしさを感じています。ぜひ続けてほしいコーナーです。

催しガイド

「回結もちつき大会」 地域の争議組合支援など労働運動の高揚めとして労働者と地域住民が餅をつき、食べながら交流する四十年来の伝統行事。中小労組・労働者の集まりである全国金属機械労働組合「港合同」ともちつき実行委が主催、NPOみなが共催。十一月十五日(土)十一時から田中機械(南市国二・六・二六)構内で。雨天決行。参加費無料。カンパ歓迎。つき手・丸め手などのボランティア募集中。八六五八三・四八五八港合同。

「書き初め・書道展」 書を通して地域のふれあいを」と毎年始め開催される恒例行事。一月二日(水祝)十・十四時に天満宮(三先一・五四〇、港南中学校北隣)の社殿で。墨・筆・半紙は用意されているので持参しなくてもよい。参加費無料。神前奉納も可。主催は同天満宮奉賛会(貴田太五会長)。問い合わせは八六五七一・〇五二七天満宮へ。

「ワークみなと「東北食品市」 東日本大震災で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所が震災前の地元産材料、宮城県産材料、昔ながら

らの製法で作った体と心にやさしい豆腐・豆乳・青豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心両面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から(売り切れ次第終了)▽ワークみなとは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所(夕凧二・六・三、TEL・FAX六五七一・七五二一)。

「自閉症児を応援する気エネルギーワーク」 プロの気エネルギー療法士が「自閉症児の体や心が少しでも楽になれば」と続けている。「気楽な参加」を呼びかけ。参加費無料。要予約。毎月第一・第四土曜(十一月は十二日、一月は十二・二十八日)十五・十八時に松井整骨院内で。并大四・一〇・二六、八六五七一・二一六五。

「ムチ打ち(首・腰)無料相談会」 交通事故でムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談会。十二月二十三日(日)十・十八時に行政書士のむら事務所(築港二・七・一・六〇八)で。一人約一時間。事前予約制(電話かメールで)。「どうしたら正しいな補償が得られるかをアドバイスします」「事故後、早めの相談が良い結果につながります」(同事務所・野村光恵さん)。E

メール: info@jikkoo110-nomura.com、TEL:六五七六・六〇七八、FAX:六五七六・六〇七九。

「緑の地球ネットワーク(GEN)」 中国山西省大同市の黄土高原で一九九二年から緑化協力続ける認定特定非営利活動法人。地球環境のため国境を越えて力を合わせている。次のような協力方法がある。①会員になる②年会費一万一千円③会報を購読する④年間 千円⑤カンパする⑥金額自由(税制上の優遇措置あり)⑦絵はがき『黄土高原の花』を購入する⑧八枚組三百円⑨『アオ』『よみがえる森』を購入する⑩三十分五千円⑪古切手・書き損じはがき・外国コイン・商品券等を送る⑫ボランティアになる⑬会報発送など⑭黄土高原ワーキングツアーに参加する⑮北京経由で黄土高原を訪問し、緑化協力の成果を観察し、村人と交流し、失われた緑を取り戻す試みを体験。四月六・十二日(六泊七日)。費用は昨年実績約十八万円。定員約三十五名▽いずれも詳細はGENの事務所(全市岡一・四・二四・五階、八六五七六・六二一八)へ。

お笑い芸人の苦学ぶ

築港中でM・エンジンが講演

「華やかな活躍の裏の苦労が分かった」――
築港中学校で十一月十日、吉本興業所属の
人気漫才コンビ「モンスターエンジン」(西森
まさし、三宅圭一)が講演した。



→「怪獣対ロボットの戦い」をネタに会場を笑
いの渦に巻き込んだモンスターエンジン(左
が西森洋一さん、右が大林健一さん)

洋一さんと大林健一さん(右)を招いて教育講演
会が開かれ、感動を呼びました。生徒と保護者
を対象に同校と同校下青少年育成推進会が共催

◆6年間は食べられなかった

登壇するや保護者席を指さし、「そのおれ
た生徒は何年生?」と笑わせて生徒たちの心を
掴んだ同コンビ。さっそく「大怪獣と正義ロ
ボットの戦い」をネタに漫才を披露。テンポの
速い喋りと「ミカルの動きで会場を爆笑の
渦に巻き込みました」。

続く「対談コーナー」では、司会の美術教師に
も突っ込みを入れながら、お笑い芸人志望とい
う三年生男子二人(大村君と竹内君)の質問に
答える形で、主に次のように語りました。

「中学時代は普通の生徒で、プロ野球やサッ
カーの選手になれたかった。教科では歴史が嫌
いやだった。昔のことなんか知らんやん」

「実家は町工場やったけど、高校を卒業して
別の鉄工所に就職した。大きな鉄板を時間かけ
て磨き終わったら、もっと大きい鉄板を磨いて
くれと言われた。その時、辞めて芸人を目指そ
うと思った」

「オーディションに合格し、最初は週二回く
らい出演させてもらい、ええ感じやなと認めら
れて、少しずつ舞台の格が上がっていった」

「最初の六年くらいは満足に食べられなかつ
たが、アルバイトしながら気合いで乗り越えた
」もとは三人でやっていたが、二〇〇七年に
一人になった。二〇〇八年ごろにやっと『プロ
としてやっていけるかな』と思った」

「ネタづくりでは内容に縛りがあり、時間の
締め切りもあるのがしんどい。楽しいけど苦し



→「最初は満足に食べられなかった」などと苦
労が語られた対談風景のもと「お尻を揉むな
な」と冗談を飛ばしながらの記念撮影①

「仕事でもある」。

「このあとフランスなどに記念撮影。」最後にひと言「と求められた二人は生徒たちに向かつて「のびのび自由にやってくださいー」と励ますように呼びかけ、盛大な拍手に送られながら会場を後にしました。

◆子供たちの心に響いた

大笑いしながら熱心に耳を傾けていた保護者の神崎早苗さん（二年生・碧さんの母親）と石井としみさん（三年生・晴菜さんの母親）は「先生に対しても容赦なく突っ込みを入れるところが面白かったです」「対談では、華やかな舞台の裏には苦労がある」と、好きなことをやろうと思えば努力が必要なこと、苦しくても耐え続けたら花開くこと、苦しみや痛みを知ってこそ人に優しくなれることなどを教えてもらいました。「うちの子もそいつですが、何でも楽しんでやろうとする今の子供たちの心に響いたと思います」「なぐと感想を話してくれました。

なお、同校の庄司教諭（技術科）は同コンビの一人、大林さんの菫中学校（城東区）時代の恩師（おんし）としてでした。

奉仕活動

自分より人思う姿勢

車いす寄贈の植木さんへ

「きつこう会」から感謝状

「自分より人を感じる姿勢は医療従事者の模範」

。病院や地域への恩返しにと数年に亘って車椅子を何台も寄贈し続けてきた男性に感謝状が贈られました。男性は八幡屋に住む植木俊和さん（五二）、感謝状を贈ったのは社会医療法人き



→「自分より人のことを思う姿勢は医療の模範」と植木さん（右）に感謝状を贈る「きつこう会」の阿部次長（左）11月27日、多根総合病院で

「きつこう会（小川嘉管理理事長）です。

十一月二十七日午後には同会が運営する多根総合病院（西区九条南）で表彰式が行なわれ、同会の阿部晃次長が植木さんに感謝状と記念の花を手渡しました。感謝状には「ご自身のことより常に人のことを思うあなたの姿勢は、医療にたずさわる者の模範であると考えます」と記載。阿部次長は「入院患者さんにも通院患者さんにもロビーや病室など至る所で利用され、喜ばれています。病院を拡張したこともあり、何台あっても足りないくらい。本当に助かっています。一時だけでなく何年も続けられていることに頭が下がります」と話していました。

◆重なる苦難を越えて

植木さんは昭和三十八年、港区東田中町（当時）に生まれましたが、幼い頃から虚弱で、手足に二本も一本も注射を打たれたことから右手右足が麻痺し、「脳性麻痺」による右上肢機能全廃、右下肢機能の著しい障害（身体障害者手帳と認定されました。田中小を卒業してから養護学校に通い、卒業後は自転車部品工場や衣料メーカーで働いてきましたが、癲癇の発作

やそれを抑える薬の副作用もあって仕事に就くのが難しくなり、今は障害年金の「Ⅱ級」で生活しています。

そんな自身の苦難に加えて、二〇〇七年三月には癌を患っていた母親が七十八歳で、二〇〇九年十一月には母方の祖母が百五歳で、二〇一一年四月には認知症を患っていた父親が八十五歳で他界。数年の間に身内を次々失つという不幸にも見舞われました。

◆一台また一台

そんな中で同病院には、腸捻転で腹部を三回手術したり、大腿部の骨折や膝の皿の割れや肩の脱臼で入院したりするなど「ほとんどの科のお世話になった」そうですが、その恩返しとして二〇〇八年頃から車椅子を一台、また一台と贈り続けてきたのです。土階建の各階に一台ずつ、整形外科に数台、脳神経外科に一台、救急に数台、リハビリ病棟に一台―など計二十八台。このうち二階フロアには五台以上が常備され、来院の利用者から「軽くて乗りやすい」「館内の移動が楽になった」と好評です。

また今春からは「母が生前に通っていた」と

いう弁天の「ひまわり」(港区社会福祉協議会)にも寄贈を始め、既にブレーキ付きなど計四台を贈り、喜ばれています。

◆港区への熱い想い

とはいえ地元のホームセンターで買った車椅子は一台約三万円。「運送代(八百円)を節約するため、このころは自分でタクシーに乗って届けるようになりました」と屈託なく笑う植木さんですが、僅かな年金の中から生活費を切り詰



→ 植木さん(右)はこれまで二、三台の車椅子を多根総合病院まで入贈り、喜ばれてきた(写真)は2011年秋、同病院1階で

て購入するのはた易いことではありません。

それでも贈り続けるのは、同病院のスタッフや、幼い頃から所属している創価学会の仲間から「身体障害のことは気にせず」「(身内を)くぐしても(一緒に頑張っている)な」などと折に触れて温かい励ましを受けてきたからでもあります。それでも「助け合いの気持ちを持たたい」とテレビのチャリティ番組に寄付金を送ったり、「子供たちの道德教育に役立てば」と市岡小学校で身体障害者としての体験を話したり、「地域の和に貢献できたら」と地元「ラスグループ(ワールド合唱団)に加わったりしてきました。車椅子寄贈は、単に病院への恩返しというだけでなく、そうした社会や地域への大きな感謝の表われのようにつながりました。

病院からは「もう無理せんでええよ」と罵詈雑言の声も出ていたそうですが、「このあえす二十台までは」「亡き父がお世話になった吉川病院(西区)にも贈れたら」となお意欲を見せる植木さん。その瞳の奥には、障害ある身をうらまえて温かく包んでくれた病院の人々、そして故郷港区への熱い想いが滾っているようでした。

健康的なおもちや贈る

ハピネスが子ども・子育てプラザへ

「子供たちに健康的なおもちやを」。『ふれあい喫茶』などの活動を通ける港区のボランティア



→玩具を贈ったハピネスグループの糸道子代表(中央奥)と、喜ぶ吉田マネジャー⑥

「ハピネスグループ」(糸道子代表)が、港区子ども・子育てプラザ(磯路)におもちやをプレゼントし、その贈呈式が十二月二十五日午後、月例の「ふれあい喫茶」の中で行なわれました。

◆プルトップ回収などで購入

おもちゃは、同グループが続けてきたアルミ缶・プルトップ回収で集まったお金で購入した「大型ブロック」。受け取った同プラザの吉田政嗣(まさし)マネジャーは「ハピネスさんから『贈り物をしたい』とお申し出があり、幼児さんやお母さん方に相談したところ、『小さな玩具は沢山あるが、大きな玩具が少ない』『広々としたこの場所でのびのび遊べるブロックがあれば嬉しい』という声が出たのでお願いしました。頂いたセットはとにかく大きくて本格的。子供たちの純粋で健康的な遊び相手になるでしょう。素晴らしいクリスマスプレゼントに心から感謝しています」と話していました。

贈呈式ではまた、同グループが「多年にわたるボランティア活動を通じてふれあいとぬくもりのある福祉のまちづくりに貢献した」として、

十一月二十日に大阪市長から表彰されたことが報告され、大きな拍手を浴びていました。

◆「ふれあい喫茶」を中心に

ハピネスグループは平成十二年三月、「幼児からお年寄りまでを対象にしたボランティア活動グループ」として発足。毎月最終日曜日の「ふれあい喫茶ハッピー」を中心に活動を続け、様々な趣味のサークルも結成。そこで作った折り紙、おじゃみ、ストラップ、袋などをクリスマスやお母の日などに無料で区民にプレゼント。現在の会員は八十代から二十代の約五十人で、女性が大半。同プラザに対しては「昨年秋季に大型木製玩具を、昨年秋季には大型キッチンセットを寄贈。二つした一連の活動に対し、昨秋には港区社会福祉協議会から感謝状が贈られました。」

糸代表は「これからも『仲良く、楽しく、無理なく』を合言葉に、港区のまちづくりと福祉の向上に貢献して参りたいと思っていますので、区民の皆さんのご支援・ご協力をよろしくお願い致します」と話していました。

「ハピネスグループ」についての問い合わせは ☎六五七二一〇六二五糸代表まで。

地域の催し

雨空飛ばす庶民の息吹

池島ふれあいまつりに数千人



→今年も人々で溢れた池島ふれあいまつり11月23日、池島公園

まいしゅう
毎秋恒例の区内最大級の文化イベント「池島ふれあいまつり」が今年も十一月十三日、

池島公園で催され、数千人で賑わいました。曇り空で一時は雨も降る中、至る所に出会いと交流の花が咲き、会場には庶民の息吹が漲っていました。主催は池島地区社会福祉協議会と海の子学園池島寮。地域振興会池島連立、池島小学校、同校PTAなどが協賛。三十二回目。

★地域の絆が強まるよう

午前十時、池島寮の子供たちによる元気一杯の「南中ソーラン」でオープン。開会式では貴田太五実行委員長が「昭和五十八年、『お年寄りから子供まで誰もが大事にされる地域にしよう』と池島小の校庭で始まり、会場をこの公園に移し、内容を充実させながら続けてきました。毎年八千人以上が参加し、港区全体を巻き込む規模に発展したのは地域の皆さんの熱意と協力の賜物。人と人とのふれあいが更に深まり、地域の絆が更に強まるよう願っています」。池島小の鈴木校長は「学習発表会を地域のまつりの中でやるのは池島だけ。学校だけでなく地域の人々との繋がりを感ずることは、子供たちの貴

←開幕を飾った池島寮の南中ソーランの感動を呼んだ池島小6年生の演奏の



重な心の財産になるでしょう」と挨拶しました。
★歌や踊りが次々舞台へ

このあと舞台では池島保育園児による歌と踊り、池島小学校児童による学習発表などが次々と登場。十一時過ぎには雨が降り出しましたが、調整を加えながら続けられ、最後は抽選会で盛り上がり、午後三時半ごろ終了しました。

このつち学芸会を兼ねた池島小や池島保育園の舞台にはカメラを我が子に向ける保護者の姿が目立ちました。特に六年生は「小学校最後の発表」ということで注目を集め、情感込めた「上を向いて歩こう」の合唱や「情熱大陸」の合奏

に、「よかったよ」などの声援と拍手が雨の中で長く続きました。発表の後には鈴木校長が「子供たちは学校だけでなく家庭でも練習しました。時に羽目を外すこともありますが、『理解・指導をよろしく』と呼びかけました。」

★模擬店やバザー盛況

バザーや飲食模擬店、魚市や野菜市、餅つきなどの「コーナー」では、立ち込める匂いや湯気の間から「安いよ」「おいしいよ」などの呼び声。ふれあい喫茶にはお年寄りが集い、ミニスト、トランポリン、金魚すくい、人形劇などには子供たちの歓声が絶えず、木工、蔓草履などの「コーナー」では青少年が高齢者から真剣な表情で物作りを教わっていました。

★「ちゃん鍋」の賑わい

ぶつからないと歩けないほどの人、人、人。焼きそばをがきこみながら歩き回る若者グループやカップル。中央のテーブル席では我が家にいるかのようなリラックスした表情で飲食する家族つれや穏やかな笑顔で舞台上に拍手を送る老夫婦。「おー久しぶりやな、元気が」「はい、何とか頑張っています」などと言葉を交わす恩師

と教える子。地域のあらゆる層で世代が集い、至る所に出会いと交流の花が開きます。何でもあるの会場はさながら「ちゃん鍋」席。民の活力が晩秋の冷気や雨空を吹き飛ばしたように感じられました。

★子供も大人も一日楽しめる

三宅博子さん(三先)は修磨くん(四)、ゆにちゃん(二)、勝喜くん(〇)に黄粉餅を食べさせていました。「餅つき風景に刺激された子供たちがせがむので…。三先幼稚園からお知らせをもらい、初めて参加しました。大勢の参加でとても活気があり、遊びも一杯あって子供たちは喜



→今年も大人気だった三蒸気機関車運転とだけの子童保育の元気なまちづくり風景の

んでいます。チフシに協賛団体名がたくさん出ていて、地域の人たちが力を合わせて続けている催しだといつことも分かりました。」

★「防犯」な裏方も活躍

「防犯」の腕章を付け、傘を差して公園の外に立っていた大西宗晴さん(五七)(池島)は「町会の会員として初めてお手伝いさせてもらいました。『防犯』は池島の各町会から計十数人が出ています。これだけ人が集まるとトラブル(ひつたくりや置き引き)も考えられるので、皆さんが気持ち良く楽しめるよう目を光らせています。今のところ何もありませんが」。

★心合わせる姿を学ぶ

地域のふれあいを目的に、あらゆる層が一年がかりで準備を進め、当日でも音響・進行・案内・清掃・防犯・自転車整理など細部にわたって任務を分担し、三十年超という長期に亘って続けられてきた「池島ふれあいまつり」。今、個人主義が幅を利かす中で失われつつある「心を含めること」の大切さを地域の大人たちが身を以て青少年に示し続けている——活気の中にそんなところを見えてくる催しでした。

千人が食べて走った！

「ちそうマラソン」に空前参加

町と商店街をアピール



「不況の中でも町の活気と商店街の心意気を
感じてもらう」と交通法規を守って歩道を走
るユニークなスポーツ行事「大阪ちそうマラ
ソン」が十一月十八日、港・此花・西区を舞台
に行なわれ、約千人の参加で空前の盛り上がり
を見せました。「目へ、おなかに、心にもちそ
う」をコンセプトに、大阪ちそうマラソン実
行委員会が主催、大阪マラソン組織委員会と八
幡屋商店街振興組合が共催。三回目。

◆「完走」「完食」めざして

前日の雨がまた降り出しそうな空の下、メー
ン会場となった八幡屋の入舟公園では午前十
一時、男声合唱団のコーラスなどが祝賀ムード
を高める中、柿色のユニホームの選手たち九
〇人が四十人ずつ二十五組に分かれ、女性司会
者のリードで「いっただきまうす」と叫び声を
上げながら次々にスタートしました。

出発を待っていた宮野入真子さん（築港）は
息子の海寿君（築港小四年）と初参加。「普段、
私は柔道を、息子は柔道と水泳をしています。

完走をめざしていますが、おなか一杯食べられ
るのも楽しみです」。

池平和樹さん（二七）（波除）は青年サッカ
ーチーム「スフテット」の十一人でやはり初参
加。「練習で走りまくっているのでも走ることには
自信あります。三時間くらいでの完走、そして

「完食」もできたうえなと思っています」。

◆観光ポイント眺めながら

時折雨が降る不安定な空の下、選手たちは八
幡屋公園から築港→此花区→西区→南市岡→市
岡などを経て同公園をゴールとする約二十四キ
ロのコースを制限時間（四時間）内で走りました。

ユニークだったのは、「信号を守る」「商店街
は走らない」などの走行ルールを守り、八幡屋
公園・海遊館・天保山渡船・安治川隧道などの
観光ポイントを眺め、八幡屋・春日出・九条キ



選手たちを歌声で励ますワールド合唱団
と飲食の世話をする八幡屋商店街の人々

→ 声援の中を次々とスタートする選手たち
11月18日11時すぎ、入舟公園

弁天クが3度目V

市長杯バレー18チーム熱闘

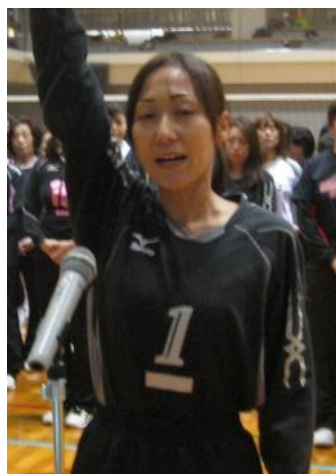
港区バレーボール連盟（萩野久美子会長）主催の「第十一回大阪市長杯・港連盟女子バレーボール大会」が十一月十八日、港スポーツセンターで開催されました。十八チームによる熱戦の末、弁天クラブが優勝、ISOJが準優勝を飾りました。

開会式では所用で欠席の萩野会長に代わって、近口伊知江副会長が主催者挨拶。来賓を代表して西紀人市議が選手たちを激励。TANAKAの藤井麻智枝主将が「私たちのバレーを理解し協力してくれる家族に感謝し、練習で築き上げた最高のプレーをお見せすることを誓います」と爽やかに宣誓しました。

●懸命の攻防が感動呼んだ決勝

三コートに分かれた予選での上位四チームが決勝トーナメントに進出。準決勝では弁天クラブがCHKKOを二対〇で、ISOJが港

←爽やかに宣誓するTANAKA
の藤井麻智枝主将



南を二対〇で破って決勝に臨みました。

決勝戦では、共に声を掛け合った懸命の攻防が感動を呼びましたが、鍛え抜かれたレシーブ力に加え、金城、小田の両エースを中心に伊井、杉森、栗田、中尾の六人アタッカーという攻撃面での層の厚さを誇る弁天クラブが、主将の脚の負傷もあって攻守に本来の精彩を欠くISOJを終始リード、二対〇（二十一対十三、二十一対十四）で勝利を収めました。ISOJの三板アタッカー（田麦、池田、佐々木）をほぼ封じた弁天クのプロックの的確さも光りました。弁天クは予選から全てストレート勝ちで、この大会二度目の頂点。来年六月の四

区大会への出場権も手にしました。ISOJは今夏の連盟杯に続く栄冠を惜しくも逃しましたが、地力の着実な向上が注目されます。三位決定戦ではCHKKOが港南を二対〇で降し、三、四位が決まりました。

●レシーブ乱れす

優勝の弁天クラブは数下俊文監督（港区バレーボール連盟副会長）の厳しくも質の高い指導のもと、弁天小で毎週一回の練習を重ねてきました。藤川博子主将は「チームとしての世代交代の途上で若手セッターが故障で欠場し、やむなく私が務めましたが一試合目で足が攣つたりして、今日はもうだめかと思いました。が、運（組み合わせ）も味方してくれた上、最後までレシーブが崩れなかったのが優勝の要因だと思います。準決勝（対CHKKO戦）が今日のベストの試合でした。今後の課題は、基本となるレシーブ力を更に鍛えること、その上で世代交代を着実にやり遂げること、特に若手セッターの養成ですね。個人的なことを申しますと、私の主将としての最後の試合、そして三人目の孫の誕生（十一月三日）を優勝で飾れ、こんな

←優勝を喜ぶ井天クラブ（後列左端は港区バレーボール連盟・浜口伊知子副会長）



に嬉しいことはありません、ハイ」と話していました。

●チームワーク維持して準V

一方、準優勝のISOJは毎週一回、磯路小で各一時間の練習を重ねてきました。中瀬

えみこ
笑子主将らは「連盟杯に続く優勝ができなかったのは残念ですが、負傷者を出しながらも持ち味のチームワークを最後まで維持できたこと、技術的には練習で最も力を入れてきたレシーブが大きく乱れなかったこと、サーブカットも比較的安定していたことなどが決勝まで残れた要因だと思います。今後も練習を重ねて、特に攻撃へ移るまでの繋ぎ（連係プレー）を磨いて



→準優勝にも爽やかな表情のISOJ

いきたいと思っています」と話していました。

●相互審判や清掃も

五位以下のチーム（順不同で、MISAKI、港南OB、AUNTS、波除女性会、南市岡クラブ、八幡屋クラブ、港南中PTA、TANAKA、波除小PTA、築中OB、しろはと、LINK、南市岡女性会、港中OB）も日頃の練習の成果を発揮して健闘。試合に敗れたあとも夕方五時半ごろまで、相互審判や応援、清掃などで大会進行を支えました。

なお、会場にはケア用品販売会社「くらんつ（株）（中央区）のスタッフ二人が常駐。脚の痙攣（けいれん）、肩の疲労などを訴える十数人に応急処置を施し、選手たちの安全を支えました。

スポーツ短信

■中学ソフト市大会で築港V 大阪市中学生親善スポーツ大会（大阪市青年指導員連絡協議

会結成四十周年記念）が十一月十八日に大阪城公園野球場・太陽の広場で開催され、男子ソフトボール港区代表の築港（九月三日の港区大会で準優勝、九月二十二日の西ブロック大会で優

勝が、中央区チームを四対〇、旭区チームを十三対四、西区チームを三対二で連破して見事優勝を飾った。同じく港区代表の市岡東（港区大会で優勝、西ブロック大会で準優勝）は中央区チームとの初戦に〇対二で敗れた。一方、女子キックベースボール港区代表の築港（九月二日の港区大会で優勝）は北区チームとの初戦で三対三の同点ながら抽選で敗れ、涙を吞んだ。優勝は天王寺区チーム。

■子ども会スポーツで港晴などV 平成二十四年度

港区子ども会親善秋季スポーツ大会が十一月後半に相次いで開催された。十八日に八幡屋公園多目的広場で開催された男子ソフトボール大会には三先、磯路、築港、八幡屋、弁天、港晴、田中、波市、池島、南市岡の各子ども会から十チームが参加。五チームずつ二ブロックに分かれての予選を勝ち抜いた四チームが決勝トーナメントで激突。港晴こども会が優勝、田中子ども会が準優勝、磯路連合こども会と三先子ども会が三位に入った。同じく十八日に八幡屋公園多目的広場で開催された女子キックベースボール大会には田中、市岡、池島、築港、南市岡、

弁天、港晴、八幡屋、磯路、三先、波市の各子ども会から十一チームが参加。二ブロックに分かれての予選を勝ち抜いた四チームが決勝トーナメントで激突。田中子ども会が優勝、港晴こども会が準優勝、八幡屋子ども会と市岡連合子ども会が三位に入った。十一月二十五日には港スポーツセンターで小学一〜三年生によるドッジボール大会Ⅱ写真Ⅱが開催された。



■港区小学生バレーボール教室「大阪みなど」

一月は十二日、二十八日（土）に三先小で、十九日（土）は池島小で九時から練習。二十日（日）は大会。見学・体験歓迎。☎〇七〇・五六五九・四八三二萬井。 よしい

■弁天出身の天ノ若 あまのわか 大相撲九州場所（十一月十一〜二十五日、福岡国際センター）で四勝三

敗。序段・東七一枚目、玉ノ井部屋。本名天 あま 野清智、三十三歳。得意技は突き押し。 のきやち

代筆

～何でも書きます、まとめます～

- ★手紙・案内・報告・宣伝・司会などの文案
- ★自分史・社史・団体史などの聞き書き
- ★新聞・広報・書籍・会報などの取材・編集

港新聞・飯田編集事務所

TEL・FAX: 06-6571-4636

Eメール: yamaemi@bridge.ocn.ne.jp

http://osaka-minatonews.sakura.ne.jp/

三先小が未到の4連覇

区Pバド大会 16チーム熱闘

港区PTA親善バドミントン大会が十一月十一日、港スポーツセンターで開催され、三先小が四連覇を飾りました。

開会式では築港中PTAチームの古賀尚子主将が「日頃の練習の成果を発揮し、ラケット捌きも鮮やかに、正々堂々と戦つことを誓います」と選手宣誓。試合では予選リーグ（各四チーム総当たり）とその順位に基づく順位決定リーグ（同）が行なわれました。

このうち優勝を争つ決勝リーグでは予選主勝の四チームが激突。最終戦は奇しくも前年度フロン・チーム三先小と港南中の対戦となり、会場は割れんばかりの声援に包まれました。決着が最終ゲームにもつれ込む大接戦の末、三先小が優勝、港南中が準優勝。田中小が三位に入りました。以下、④築港中⑤池島小⑥弁天小⑦南市岡小⑧築港小⑨磯路小⑩港晴小⑪港中⑫市

←宣誓する築港中主将・古賀尚子さん



岡中⑬波除小⑭市岡東中⑮市岡小⑯八幡屋小の順。三先小は大会史上未到の四連覇、通算優勝回数でも弁天小、市岡中を抜いて単独トップに立ちました。港南中は悲願の初優勝ならずも四年連続の準優勝。通算八度の準優勝はこれも断トツのトップです。

◆実戦と基礎を組み合わせて練習

優勝した三先小Pの吉田郁雄部長は「今年のチーム成績は二十七勝二敗と好調で、その流れの中で優勝できました。要因としては、一人ひとりのスキルアップはもちろん、ここの大事な場面で結果を出せるチームワークと集中力、勝ちたい」という強い思い、それに何と云っても個人個人の愚直で地道な努力です。週二回・

各二時間という限られた中で実戦形式を中心に練習していますが、一カ月前からは「ウォミングアップコーナー」みたいな基礎練習の時間を十分間ほど設けてリフレッシュしました。来年はさらに戦力が安定し、オーダーミスなどない限り五連覇も夢ではないでしょう。私自身



→大会史上未到の4連覇を成し遂げ、充実感に浸る三先小Pチーム

は港南中に属することになりますが、三先小の
独走を許さず、ドラマチックな展開に持ってい
けたらと思っています」と話していました。

◆OBの協力も試行も

準優勝だった港南中Pの植野真田美部長は
「皆で楽しもつと出場しましたが、今年こそ
はーと優勝も意識しました。練習では一カ月前



→4年連続準優勝と屈指の安定感を

アピールした港南中Pチーム

からOBの協力を得、ダブルスの組み合わせを
試したりしました。結果には『これも悔しい』
というのが正直な気持ちです。でもトロフィー
がもらえたのは、チームワークが良く、メンバ
ーが揃い、オーダーも良かったから。ただ決勝
ではテンパって普段の実力を出せない人がいた
のがちょっと残念です。来年は新しく四人を迎
え、弱点を克服し、一番大きなトロフィーを持
ち帰れたらと思っています」。

三位だった田中小Pの三宅正裕代表は「卒業
メンバー最後の大会を三位で飾れ、嬉しいです。
練習で培った技術とチームワークが生きまし
た。昨年の大会のあと十八人に増え、新人を中
心に練習してきました。来年はさらにレベルア
ップを図り、できれば優勝を狙いたいと思っ
ています」と話していました。

◆自主運営でも持続可能な大会に

閉会式の講評の中で宮本隆司・港区PTA協
議会副会長は「大阪市コミュニティ協会の事務
局の支援を受けることができなくなり、初のス
ポーツ大会の自主運営で不安がありました。が、
全チームの運営委員や選手の皆さんの協力があ

←3位に沸く田中小Pチーム



り、また港区バドミントン連絡会さんが全面的
に運営に関わって頂いたお陰で、スムーズに運
営することができました。来年以降は、各校の
皆さんの一層の協力を求めると共に、可能な部
分はスリム化するなどして持続可能な大会にし
ていきたいので、よろしくと呼びかけました。

少年野球の甲子園

市長杯・MINATO杯が閉幕



→優勝チームにメダルを贈る駿河会長

11月23日、舞洲ベースボールス

タジアム（株）共同写真企画提供

“少年野球の甲子園”が半年間の熱戦に幕。

十一月二十三日、少年野球MINATO連合主催の第十三回大阪市長杯・第十四回MINATO杯大会の準決勝・決勝・閉会式が此花区の舞洲ベースボールスタジアムで開催されました。

●住吉フレンドが優勝

悪天候による時間調整のため初のナイター試合となりましたが、選手たちは寒さの中で最後の熱戦を繰り広げました。保護者らの声援を受けての息詰まる攻防の末、優勝は住吉フレンド（住吉区）、準優勝は大阪クワガース（城東区）、三位には下荘少年野球クラブ（阪南市）と光明台ハレーズ（和泉市）が入りました。MINATO連合加盟チームでは市岡アトムミックと港ブルースター（連合チーム）が二回戦敗退、港ヤンキースが初戦敗退でした。

閉会式では上位チームが表彰され、選手たちにメダルが贈られると共に、模範的なグラウンドマナーを称えるベストマナー賞や最優秀選手賞などの個人賞も発表されました。

MINATO連合の駿河通友会長は閉会あいさつで、半年間に亘った大会の模様を振り返

りながら、参加百五十八チーム全選手の健闘を讃え、「選手の皆さん、汗と涙と感動をありがとうございました」と結びました。

●青少年の健全育成掲げ

同連合は平成十一年三月、少年軟式野球八チーム（港ヤンキース、福岡ヤンチャーズ、市岡アトムミック、港侍ジャイアンツ、井天ホワイトボーンズ、北恩加島少年野球部）が集まり、「軟式野球を通じて青少年の健全育成を図り、地域間交流を通じて友情の輪を広げよう」との趣旨を掲げて設立。以来十三年八カ月に亘り、春季リーグ戦（四〜六月）、夏季遠征（八月〜十月）、秋季リーグ戦（十一月〜一月）、卒団大会（十一月）などの年間活動を積み重ねてきました。

中でも同連合が主催する大阪市長杯・MINATO杯大会には毎年、近畿一円から百数十チームが参加。少年野球の甲子園として野球少年たちの憧れの舞台となっています。

同連合についての問い合わせは☎六五七六・七一九一（駿河会長）まで。

迫力技に観衆も興奮

みなとプロレスが第2弾



→ 熱い戦いに観衆も興奮した「みなとプロレス」の第2回興行（写真はその第4試合でサザンクロスを攻める高井憲吾）

「長期不況に苦しむ地域を元気に」「子供たちに正義感と勇気を」と港区のプロレス団体「みなとプロレス」の第2回興行が十一月十八日午後、港区民センターで開催され、詰めかけた区内外のプロレスファンが迫力ある技の競演を楽しみました。

◆タッグやシングルで5試合

五試合が行なわれ、第一試合はマグニチュード岸和田十ディアアプロ組がサザンクロスR.U.（エニツラジヨウ）+F244組に「悪魔首折り弾」↓体固め」で、第二試合はグラン浜田がイデアに「バックドロップ」↓体固め」で、第三試合は安藤雅生+黒影組が伊禮タケシ+富宅飛駆組に「肩固め」↓ギブアップ」で、第四試合は高井憲吾がサザンクロスに「でらふボム」↓体固め」で、第五試合は輝優優（ヨウユウ）+H.A.R.U.に「フライングニードロップ」↓体固め」で、それぞれ勝ちを収めました。

このうち第四試合で三転三転の末に勝利した高井選手は試合後マイクを握り、観客に向かって「俺の熱い気持ち伝わったか。これからもう熱い試合やったるぞー」と叫びかけ、大きな拍手と声援を浴びていました。

観衆の一人、中島エチ子さん（七二）（市岡）は市岡や波除のプロレス好き高齢者グループ五人で仲良く観戦。「プロレスは迫力があって刺激的。力道山の時代から大好きです」。また、招待された障害者作業所の青年らは悪役の反則技に「きたねーぞー」「レフェリーはよく見る」などと声を張り上げていました。

◆魅力のパフォーマンス

次々と繰り出される高度な技、巨体がマット叩きつけられる際のバーンという衝撃音、相次ぐダメージに耐え抜く強靱な肢体、息詰まる攻防の合間に見せるユーモア溢れる仕草や口撃―特設リングとその周辺で展開される肉體パフォーマンスは、プロレスファンならずとも惹き込まれる魅力に満ちていました。特に場外乱闘では、観衆にかなりの恐怖を感じさせながらも決して危害は加えない絶妙なバランスに、プロの技量を感じられました。

今回の興行を企画したミッキー隼野さんはかつてアマチュア覆面レスラーとして活躍し、後進の育成にも注力。昨年一月、「みなとプロレス」旗揚げ興行を果たしました。

南市岡在住画家 岸本 安司 (81)
きしもと やすし



大阪港の冬の夕陽には

年寄りがよく似合う

師走の落陽は南へ南へと移動していきます。
大阪港の夕陽もこの時節には日々、南港方面へと着地点を移し、何だかそのまま港区を見捨てていってしまう気がしてなりません。それがまた年の瀬の慌ただしさとも重なって、何ともいえない寂寥感を掻き立てるのですが、そんなマイナスイガをほっと癒してくれたのが、もう十数

年前になるでしょうか、恐らく夕餉前の散策に天保山西岸壁を決まって訪れる、この絵の老夫婦でした。

一人とも背と腰と膝が曲がり、杖を手に、沈みゆく夕陽をただ眺めていました。他のアベックなごが肩を寄せ合ったりする中、二人の立ち位置は、いつもお婆さんが前で、背の高い主人は左後ろでした。二つの影が長く静かに伸びていました。

やがて陽が落ちると、もと来た方へ歩いて行きましたが、その道では三言三言、言葉を交わしているようでした。



→「大阪港の夕陽」1999年(油彩)

夫は船乗りとして七つの海を駆け巡ったのでしょうか、それでも港邊で過酷な荷役作業を担ってきたのでしょうか。いずれにしても二人して歩んだ幾歳月の悲喜交々が、あの長い影や後ろ姿には投影されているように感じてなりませんでした。

思えば、あの頃からこの岸壁は、夕陽を背に若者たちのコンサートなどで賑わうようになりましたが、それでもやはり、大阪港の冬の日暮れには年寄りのシルエットが一番似合う。自分が仲間になったからではありませんが、今も頑なにそう思っております。

× × × × ×

きしもと・やすし 一九三二年港区生まれ。
小豆島暮らしを経て三先国民学校から大阪、香川の工業学校へ。戦後は工場勤めを経て城東保健所、大正保健所に勤務。演劇活動をきっかけに絵画を始め、定年を挟んで「高速道路なんかいらした」「役所の腐敗を何とかせよ」などの社会的警鐘や、「隙間」「口陰」「けったい」への愛着を含めた独自の画風で描き続ける。賞を厭い、組織に属さず、生涯一匹狼画家を貫徹中。

なにわの名工に室田さん

築港「むろ多」の日本料理人

若葉賞に濱田さん、林さん

優秀な技能者を大阪府が表彰する本年度の

「大阪府優秀技能者表彰」(なにわの名工に、むろたいます)

港区から築港の日本料理人・室田大祐さん(四



↓「なにわの名工」に選ばれた築港の
日本料理調理人・室田大祐さん

九が選ばれ、区民の明るい話題になっています。

す。金属加工・建築・理美容など各職業分野で「府内の第一人者と認められる」などの条件を満たした満二十五歳以上の五十四人のうちの一人。

また、優秀な青年技能者を府が表彰する「大阪府青年優秀技能者表彰」(なにわの名工若葉賞

にも、港区から弁天のタイル張り職人・濱田朋大さん(二六)と築港の日本料理人・林勇佑さん(二八)が選ばれました。各職業分野で「一級技能士以上の技能を有する」などの条件を満たした満二十五歳未満の二十七人のうちの二人。

十一月十七日の「大阪府職業能力開発促進大会」でそれぞれの表彰式が行なわれました。

◆地産地消、後進育成に貢献

このうち室田さんは築港四丁目の老舗日本料理舗「むろ多」で働くベニフラン調理職人。田辺大根を使った「風呂吹き大根」の考案などで地産地消に寄与したこと、「はもの骨切り」などで卓越した調理技術を持ち合わせていること、大阪府のふぐ処理講習会講師として後進育成に貢献したことなどが評価されました。

◆技能五輪で活躍

また濱田さんは弁天三丁目の浜田タイル株式会社

働く青年タイル張り職人。習得に十年以上かかるとされる「団子貼り」や正しい知識が必要な「接着剤貼り」などで若手の模範となっていること、全国技能五輪で金メダルを獲得したことなどが評価されました。

林さんは室田さんと同じ「むろ多」で働く若手調理職人。全国技能五輪で敢闘賞を受賞したことで、「鯛の山椒焼き」など焼き物料理に優れた技能を有していることなどが評価されました。

〈次号より順次、受賞者へのインタビュー記事掲載する予定です。1期は付下さい〕編集部

残した
子や孫たちに
我が人生!

父が興した会社を継ぎましたが、強気の経営が裏目に出てパブルの最中に倒産。ガードマンなどしながら再起を誓い、15年前に別業種ながら起業。苦い経験を糧に、今は順調な経営が続いています。そんな半生を子や孫に残したいと、冊子にして頂きました。(60代男性)

★文書全般の代筆も承ります★

港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636

お話をききとり、冊子にしてお渡しします。

400字(原稿用紙1枚)で千円が標準料金です。

力強いやわやわ

区民音楽祭 10グループ競演



10グループが健やかな歌声を響かせた
「ひまわりのコンサート」会場は「ワールド
合唱団」＝11月26日、区民センター

「コーラス発表を通して歌う喜びを共有し、グループ間の交流を」と市民協働の手づくり合唱イベント「港区民音楽祭～ひまわりコンサート」が十一月二十五日午後、港区民センターで開かれ、区内のコーラスグループが健やかな歌声を響かせました。港区民音楽祭実行委員会・（財）大阪市コミュニティ協会港区支部協議会が主催、港区社会福祉協議会・筋肉商店街実行委員会・手話サークルみなとが協力。五回目。今年のテーマは「笑顔をつたえこのせて」。

♪童謡から「コスヘルまで

オープニングは全出演グループによる壮大な「ひまわりの風」の太合唱。このあと、小学校生涯学習ルームなど十のコーラスグループが、童謡・唱歌から歌謡曲・民謡・コスヘルまで、日頃の練習の成果を次々と披露しました。

中盤には来場者も含めた「明日があるさ」「森のくまさん」の合唱と、賛助出演の此花少年少女合唱団の舞台が挟まれ、最後は再び会場全体で手話を交えた「ふるさと」を大合唱し、感動と一体感の裡に幕を閉じました。

♪東北復興への願い込め

出演グループのうち「ワールド合唱団」（指揮・山本寿さん、伴奏・佐々木康子さん）は港区全域をエリアとする四十～七十代の男性五十人の合唱団。メンバーの孫と思われる声での「おじいちゃん」「コールを受けて颯爽と登場。東北復興への願いを込めて、懐かしい「高原列車はゆく」を、また全身を使った力強い発声で、親子・師弟関係の美しさを荘厳に表現した「厚田村を、それぞれ歌い上げ、アンコール」の歓声を浴びていました。

演奏後、メンバーの小池喜久次さん（七八）（三先）は「合唱団に入ってから十数年になります。イベントの二カ月ほど前から週一回ペースで練習に入ります。心臓が悪く、一年ほど前からペースメーカーを入れ、今日は杖をついて出ましたが、リハビリにもなるので歌い続けています。『高原列車はゆく』の舞台である福島県は私の故郷。今も会津に兄弟の子供が住んでいるので『原発災害で大変やけど負けるなよ』という気持ちを入れて歌いました。これからも難しく考えず、楽しく元気に歌い続けたいと思っています」と話していました。

♪声を心合わせる樂(たのしみ)と

また弁天小学校生涯学習ルーム「弁天サマーズ」(指揮・磯島朋子さん、伴奏・高木久美さん)は月一回、同校で練習する四十〜七十代の女性グループ。料理をテーマに歌詞もユーモラスな「ハンガリー風シチューの作り方」などをキッチンスタイルでのパフォーマンスも交えて満面の笑顔で披露しました。

演奏後、団員らは「元気に楽しくーを心がけて歌いました。合唱の魅力は皆で声と心を合わせ



→キッチンスタイルのパフォーマンスも楽しかった「弁天サマーズ」④と、日本民謡で故郷の大切さを歌い上げた「ラ・リカント」⑤

せる楽しさ。私たちのキャラクターに合わせて先生が選曲やアレンジをして下さるのも嬉しいことです。来年の十周年に向けて、さらにパートリーとメンバーを増やし、歌の輪を弁天から港区全体へと広げていきたいです」と話していました。

♪故郷の大切さをと選曲

「ラ・リカント」(指揮・片肇弘子さん、伴奏・濱長良美さん)は港高校同窓会館で毎週金曜夜に練習を重ねる実力派合唱団。「東日本大震災で故郷の大切さを思い知らされた」ことから選曲したという「よさこい節」「会津磐梯山」などの日本民謡を、美しいピアノ伴奏、指揮者への集中、まっすぐな姿勢、口を大きく開けたメリハリある発声で情感豊かに歌い上げ、深い郷愁と感動を呼びました。

「クワイア552」は港区「コミュニティ協会主催のゴスヘル教室をきっかけに結成されて五年。豊富な練習を思わせる心地よいハーモニーとリズムで「物語」などを披露、会場からの自然な手拍子を誘いました。

この他にも、ある時はピアノ伴奏で、ある時

「心地よいハーモニーで「ゴスヘルを披露するクワイア552」④と、最後を飾った「ふるさと」の手話まじり大合唱⑤



はアカペラで、やさしく、また力強く、どのグループも個性ある表現で盛んな拍手を浴びていました。

♪区民の声をきつかに

なお、この催しは「発表の場がほしい」「コーラスの楽しさを存分に味わいたい」という区民の声をきっかけに区内の合唱グループが実行委員会を結成。(財)大阪市「コミュニティ協会港区支部協議会の援助も得て準備を進め、チラシやポスターも自分たちでデザインしました。

個性ある芸に拍手

「OH!まつりin田中」活況



地域の人々の個性が花開き、元気が爆発一。十一月十八日午後に催された田中・夕凧地区恒例の文化イベント「OH!まつりin田中」には田中・夕凧地区住民を中心に多数が参加、地域の一大交流・親睦の場となりました。隔年開催で八回目。田中地区社会福祉協議会(近江隆司会長)が主催。

★コーラスや民舞が次々と

矢田勉・田中社協副会長による笑い沢山な「開会のご挨拶」を口説く、十組の出演者が次々と登場しました。

このうち合唱サークル「スイートピー」は美しいハーモニーと粋なパフォーマンスで「家族写真」などを、女性ダンスユニット「TML4」は愛らしい振り付けで「PON PON PON」を、山上麗子さんの民舞グループは日本の秋の長閑さを感じさせる「弥生つ子村祭り音頭」を、ボランテア芸三十数年の中西二美さんは「アコデオン&トークで」のんき節にのせた都々逸」などを、ダンスユニット「セーシース」は刺激的な化粧・衣装とパワフルな振り付けで「スリラー」を、それぞれ披露。最後は地元「アリスト・

北原夕美子さんの伴奏と「スイートピー」のリードで会場も一緒に「故郷」を大合唱しました。

★バラエティに喜み楽しめた

終演後には景品八十本が当たる抽選会が、お笑い芸人顔負けの爆笑司会で進行。また校庭では午前から地域の各団体がコーヒー、カレーなどの模擬店を開き、賑わっていました。

来場者の一人、和氣坂百合子さん(六七)は「シウ英美ちゃん(八) (田中小三年)と亜風くん(三)の孫一人を連れて初参加。『民謡だけでなくダンスやピアノなどバラエティに喜み、楽しませてくれました』と話していました。



→のどかな民舞「弥生つ子村祭り音頭」①と会場も一体となった「ふるさと」大合唱②

迫力風景画に感嘆

川島恵美子さん作品展にぎわう



→絵について来場者と語り合う川島恵美子さん
中央＝11月25日、画廊「バリア」で

平和の願いをキャンバスに込め、リアリズム（写実主義）を貫いて絵画人生を送ってきた八幡屋在住の画家・川島恵美子さん（八二）が、みなと通に昨秋オープンした画廊「ガレリア・バリア」で十一月十三日～十五日、五十回目となる作品展を開きました。

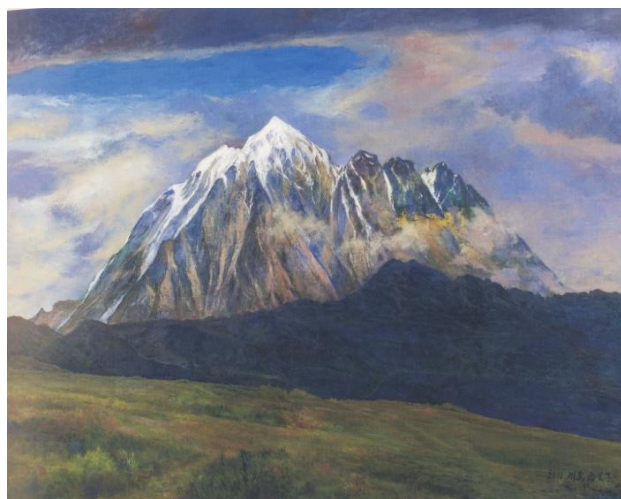
一階ギャラリーには油彩風景画の大作「三ツヤコング」（〇七年中国、100号）、「梅里雪山」（〇八年中国、100号）、「ネンチンカンサン」（〇六年チベット、100号）、「チベットの山々」（〇九年チベット、100号）、「ダウラギリ峰」（九九年ネパール、50号）など九点、それにパステル風景画の小品など旧・新作合わせて十数点が展示。一階アトリエには実母を描いた「母の像」（六八年、木区アッサン）や「杉並木」（一〇年奈良県、50号油彩）などの風景画数点が展示されていました。また、この五十回展を記念して出版された第一画集も置かれ、来場者の関心を集めていました。

◆写実主義に圧倒された

十一月二十五日夕刻に築港から訪れた六十代女性一人は「川島さんの作品を初めて観て頂

←「地底から突き上げ、束ねた剣のように

天を指す姿は神々しかった。頂上の雲が晴れず、祈って祈ってようやく切れた瞬間に大急ぎでスケッチしたといふ「亜拉神山」（2011年中国、100号油彩）

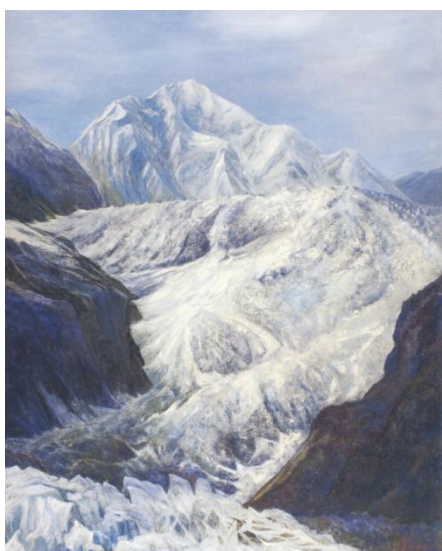


きましたが、女性で、高齢なのに大作が多く、驚きました」「これが写実主義というのでしょ、か、間近に見ると本当にリアルで圧倒されます。遠近感も強烈で、吸い込まれるような臨場感を感じました」「すっきりした味わいのパステル

画も素敵ですね」と話していました。

◆山に元氣もらって描いた

来場者の接待や作品案内に忙しく動いていた川島さんは「今回は山の風景を集めました。小さい頃、毎朝掌を合わせて拝んだのは薩摩の紫尾山、小学校の卒業旅行は霧島の高千穂の峰。一九四八年に初めて油絵を描いた時の題材は桜島でした。山は厳しいけれど、美しく、ありがたいもの。日常の暮らしの中で、悩みや苦しみを



→「ミヤマコンガの水河は気が遠くなるほどの年月が想像された。その透明感を出すため、一度地肌を描いた上に白を重ね塗りした」といって「氷河」(2007年中国、100号油彩)

がどんなに深くても、山に会い、山を描くことで、全て洗い流され、優しい気持ちになれば、元氣をもらってきました。描く時にはそこに暮らす人々を思い、祈りながら筆を動かしています。



→「又暮れ時、川回りの村が暗くなり、

一気に寒くなる中でニルギリ峰だけが静かに聳えていた。日陰の自然な暗さを出すため、一度描いた上に暗色を重ね塗りした」といって「ニルギリ峰とカリガンタキ川」(2012年スエーデン、100号油彩)

多くのお力添えで好きな絵を続けられたことに感謝しつつ、これからも写実主義を貫き、平和を願い、画家として最後の一点めざして努力を続けたいと思っています」と話していました。

川島恵美子 一九三〇年兵庫県生まれ。一九

四八年、長谷川常弘氏から油絵の手解き。以後、大泉米吉、吉田利次、山本八三(銅版画)の各氏に師事。関西美術家平和会議、リアリズム美術家集団(のち集団造形)、日本美術会に入会。家事・子育てをこなし、社会運動にも関わりながら一貫して写実主義を追求。平和美術展、日本ア・ンデパンダン展などに出品。個展は六一年に第一回、六四年から毎年開催。六八年から海外ス・ケッチ。〇五、二二年に画集。一二年画廊開設。

ガレリア・リバリア 川島恵美子さんが①絵

画人生の集大成②今後の活動の拠点③地域への感謝の表現④次世代への橋渡しの場として二〇一二年十一月オープン。「リバリア」はスペイン語で「川」を意味。一階は常設展、二階はアトリエ。月々金曜十一〜十六時開館。入場無料。

三先二・二三・一八(みなと通沿い)、地下鉄朝潮橋駅すべ、☎七五〇二・四二八。

入魂の手技にため息

老人福祉センターで作品展



→魂を込めた力作の数々に「綺麗やね」「上手やわ」とため息がもれた「港区老人福祉センター作品展」 11月21日

「美しいね」「見事やわ」。港区老人福祉センター（夕田）の各種サークル会員の作品展展示会が十一月二十、二十一日に同センターで催され、入魂の手技の数々にため息がもれました。展示されたのは絵画、写真、手芸、工芸、編み物、書道、生け花、折り紙、フワフワアレンジメントなどこの一年間に制作された作品。どの作品にも作者の想いが籠り、持てる技が注がれ、一つとない個性に溢れていました。

◆厳しき菩薩 往年のスター

このうち小川アヤ子さん（波除）の油彩画『宇治平等院雲中供養菩薩像』は、雪の上に立つ菩薩の表情に穏やかさと厳しさが同居しているのが印象的で、背景の燃えるような赤には



→小川アヤ子さんの油彩画『宇治平等院雲中

供養菩薩像』（部分）④と扇田法子さんの

墨絵『グレイリー・ペック』（部分）④

「年寄りに冷たい世の中への怒りを表わしてるみたい」との感想も聞かれました。

墨絵では往年の洋画スターを描いた扇田法子さん（田中）の『グレイリー・ペック』が二ツクで、「そっくりやわ」「懐かしいね」などの声が上がっていました。

◆書の意味の説明が好評

書道作品には漢字の意味の説明が添えられていたのが好評でしたが、このうち今江肇子さんの『心廣體胖』には「心がひろくのびのびとしてゆったりしている」「土井美佐子さんの『千里馬常有 伯樂不常有』には「優秀な人は世の中に数々居るけれどそれを見出す辛相



→今江肇子さんの『心廣體胖』④と土井美佐

子さんの『千里馬常有 伯樂不常有』④

は少ない。」「か今の政治に似てゐませんか？」とあり、鑑賞者から「不思議やねえ」「ほのまやわ」などの感想が聞かれました。

◆豪華絢爛、木組みの妙

宝飾作品では旧五十円硬貨を贅沢に使った篠塚晴男さんの『宝船』が来場者の目を奪い、「豪華絢爛やね」「まさに宝の舟やな」など溜息まじりの声が上がっていました。

木工作品では「明治初期に大阪城の西大手門の四本柱の一本が下から腐ってきたのを老夫木が木組みで修理した」と聞いて感動し、「同じように作ってみた」という柳沢輝夫さん(田中の『大阪城の柱』が注目を集め、「柱と柱がひたたり嵌っているわ」「釘を使つよりしっかりとするんやね」など感嘆の声が聞かれました。



→篠塚晴男さんの宝飾作品『宝船』④と柳沢

輝夫さんの木工作品『大阪城の柱』⑤

文化

牛革の逸品あふる

南市岡の「風庵」で29日まで



→手づくりの牛革製品の魅力をぜひ味わって下さい」と呼びかける藤井オーナー

(南市岡・繁栄商店街の「風庵」で)

「しなやかな触感が何ともいえないわ」。牛革の魅力にとりつかれた京都女性による手づくり製品が南市岡・繁栄商店街の画廊&喫茶「風庵」で展示され、好評を博しています。京都弁 倉橋千代子の手づくり革バッグと題して十一月に始まり、十一月二十九日(土)まで開催されます。

★鞆、財布など十数点

作者は京都府舞鶴市に住む倉橋千代子さん(七二)。小さい頃から物づくりが好きで、趣味のパッチワークの材料に牛革を使ったことからその魅力に惹き込まれ、二〇一二年は革細工に専念。今回、風庵のオーナー藤井繁美さんの要請で、これまで手掛けた数十点から、鞆を中心に、財布、小物入れなど十数点を出品しました。その中には柔らかなバックスキン(裏革)を使った作品も含まれています。

★一品一品に時間かけて

「牛革はしなやかで、手縫いするのに程良い厚さ。制作にあたっては、既製品を参考にしながらも、基本的には我流でデザインします。縦横のバランスなどに苦心しますが、思つよう

にでき上がった時は何とも言えない幸福な気持ちになります。一品一品に時間をかけ、心を込めて丁寧に仕上げていますので、この機会にぜひ手づくり革製品の魅力に触れてみて下さいね」と倉橋さん。夫婦で長年、看板屋を営んでいたことで、デザインのセンスや手先の器用さはその中で培われたのかも。そのパートナーであった主人は今回、余り革で極小サイズのアクセサリー（ダイヤル番入りの電話器）を作ってくれ、それも併せて展示されています。

★関連小物入れなども展示

風庵では他に「フラワーキャッツ 大橋孝子」の革小物展「インスピレーションカラーを施した関連小物入れなど」も同時開催。また地元画家による絵画、藤井オーナー所有の明治・大正期の陶器・ガラス器、昭和期の柱時計・レコード盤・ミニンなどを常設展示。

風庵 南市岡三・二・一〇（繁栄商店街）。

☎四九六五・五九八一。十時半〜十八時開館。

日曜休。人気の自家焙煎珈琲はワッキー付きで三〇円。

演劇ガイド

●弁天喜劇・笑天下「クリスマス喜劇 サンタが街にやってくる来ない?」

放送作家の砂川一茂さんが「人を笑わせ、自分も元気に!」「喜劇はチームワークと「コミュニケーション」と一般市民を楽しく集める」お笑い特訓した成果を発表。十一月二十三日（日）十五時から弁天町市民学習センター講堂で。観劇無料。先着百二十名。☎八五七七・一四二〇同センター。

●あんがいおまる一座・年の瀬特別企画「怪談をまたまた食す」

明治から昭和に至る怪談文学の名品を朗読と生演奏で。お盆上演の好評を受け、読み手を増やしての第三弾。朗読はヨッシー原本、ゆづり、岡戸淳子、くめくめ、あんがいおまる。バック演奏（電気ギター）は妖怪博士としても有名なミュージシャン亀井登夫。演出はあんがいおまる。上演作品は『みだらな儀式』（源氏鶏太）『抒情歌』（川端康成）『沼垂の女』（魚田喜久雄）『松助怪談』（邦枝完二）『地下街』（中井英夫）『進化論の問題』（新羽精之）『銀色の海』（竹内健）『マストの上の怨霊』（伊波南哲）『猫が物いふ話』『猫の踊』（森銃三）

読者プレゼント

※いずれもハガキに当月の感想とプレゼント名を書いて20日必着で港新聞へ。

●交通科学博物館（〽〽〽〽案内）招待券をへア2組に。

●弁天シネマ倶楽部『素晴らしき哉 人生!』（〽〽〽案内）招待券をへア2組に。

●シネ・ヌーヴォー『魂のシネマスト・高林陽二』（〽〽〽案内）招待券をへア2組に。

●あんがいおまる一座「怪談をまたまた食す」（上段に案内）招待券をへア2組に。

故郷の話をしよう

島根県・隠岐島出身

おきのしま

かわい
みのる

川井 稔さん（磯路）〈下〉

「♪頃は丘の畑に 桃の実が赤くなる頃」

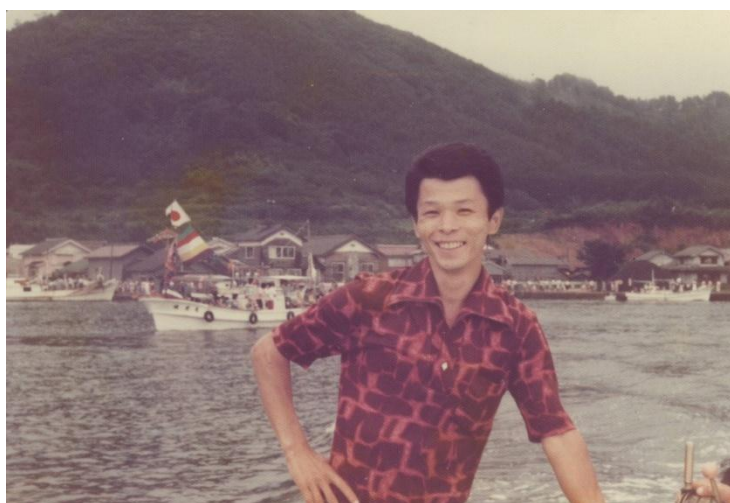
（昭和四十年北原謙一『ふるさとのはなしをしよつ』）。生粋の港つ子にとっても、最近引越してきた住民にとっても、さらには地方出身者にとっても、慌ただしい都会生活の中で、まだ見ぬ異郷に思いを馳せるのは、時空間旅行にも似た快感です。そこで、幼少期・青年期の悲喜交々を織りまぜながら、皆で故郷の話をしましょう。そのトップバッターは、遙か日本海の隠岐島から十五歳で上阪し、現在は磯路三丁目で「珈琲館 隠岐」を営む川井稔さん（六四）です。前編までに、生まれ育った西ノ島での遊びや風習、家庭生活や学校生活を語って頂きましたが、さて最終回は――。

× × × × × × ×

私は昭和二十二年十一月、現在の島根県

隠岐郡西ノ島町美田大津に五人兄弟姉妹の第

四子（二男）として生まれました。父は外国航路の船員で、年に一度帰るかどうかの生活であった上、私が三歳の頃、四十歳の若さで病死し



→島を出て船員になり、仕事にも慣れた

21歳の頃、帰郷して美田の漁港で

たので、父を巡る思い出はほとんどありません。

◆母はいつも働いていた

その父に代わって、母は私たち子供を、父親役も果たしながら養育してくれました。漁業組合から頼まれた真珠貝の養殖やト口箱作りなどをこなし、家では洋裁や和裁にも精を出していました。とにかく朝から晩まで働き、私たちが起きる時にも寝る時にも母は動いていました。毎朝、目覚めの時のトントンという組板の音が、今も懐かしく耳に残っています。

父の遺族年金はくれたものでした。母が四六時中働いていましたが、それでも家は貧しく、学校では教科書代が払えず、長兄は先生に催促されるといつも「忘れしました」とごまかしていたそうです。近所の店では、持ち帰る品物の種類と数を「通い帳」に記しました。つまり私たち子供の将来を担保にした「出世払い」を店は認めてくれたのでした。

◆15歳で島を出て船員に

そんな暮らしていたから兄弟五人ともが中学卒業と同時に働き、上の男二人（長兄、次兄（私）は船乗りになりました。家への仕送りが必

要な私たちにとって「船の中では衣・食・住が保障される」ということは大きな魅力だったのです。といつて、私も中学校を卒業すると大阪の関西汽船に職を得、十五歳で島を出ました。港区夕凪に住み、天保山埠頭（のちに弁天埠頭）と別府を往復する別府航路の客船乗務員になり、乗客千人ほどを相手に厨房での賄いや船内サービスの仕事に従事しました。

給料は自分の生活費以外は故郷へ仕送りしました。とはいえ、「将来は独立して飲食店を営



→ 船員時代、関西汽船の船内のバー

シバーでカクテルを作る私

むんや」という夢も持っていました。また船の仕事は上下関係が厳しく、人間的に随分鍛えられたように思います。

◆ 船中と巡り合い、結婚へ

この船員時代に現在の妻・光子と船中で巡り合い、惹かれ合い、二十四歳で結婚しました。交際の昭和四十六（一九七二）年、二十三歳の夏、「結婚前に僕の故郷を見てほしい」と二人で帰郷した時、愛媛県西条市出身の彼女は、それまでの自分の暮らしから余りにも隔絶した島の様子、特に生活の不便さに驚き、「私はとてもここでは住めないわ」と漏らしました。それでも島の名勝・通天橋などを訪れるうち、「貴方はこんな美しい自然の中で生まれ、育ちはったのね」と感銘を覚えたようでした。

◆ 志願の珈琲館を創業

船で十三年を過ごした十八歳の時、会社から希望退職を募られたのを機に会社を辞めました。そして、それまでの貯金や退職金を元にして、現在の喫茶店「珈琲館 隠岐」を構えたのです。「やるからにはお客さんに飽きの来ない、味のある店に」「故郷の名を使った『屋号』に恥じない立

派な店に」と考え、借金も厭わず、内装や調度品にも自分なりの拘りを込めました。

以来三十有余年、景気の浮き沈みの中でも地元のお客さんに支えられながら、何とか営み続けることが出来ています。現在、営業は七時から十七時。休業は毎週月曜日。自家焙煎珈琲を主に、ハンバーグランチやホットケーキなどの食事メニューも加え、アンティークな内装や調度品、また一九五〇～七〇年代を中心とした懐かしい映画音楽など静かなバックミュージックで、訪れたお客様に快適な憩いの時間を過ごしてもらおうと努めています。

◆ 帰って来いよ

そんな今の暮らしの中で、時折りふと故郷のことが思い返されます。懐かしさに胸が熱くなり、妻に話すと、妻もまた自らの故郷を語ってくれます。

独身の頃は有給休暇を利用して毎年四十日ほども帰郷していましたが、結婚してからは三年に一度くらいになりました。今夏、八十八歳まで生きた母の七回忌に訪れたのが一番新しい帰郷です。これから故郷にはそのへんりの

←現在の磯路の一角で「珈琲館 隠岐」を営む（右は妻の光子）



スで付き合っていくことになるでしょう。

その故郷では次兄が家を継ぎ、今は船員年金でのんびりと暮らしています。そして、「よめあるように」帰って来いよ」と私にうるせえ言います。妻は「私が死んだら返してあげますわ」と受け流していますが、さてどうなりますことやう。

（おわり）

ミニミニ案内

●交通科学博物館「特急百年〜時代と共に駆けろ〜」一九二二（明治四十五）年八月に「特別急行」が誕生して今年で百周年。一般人が乗れない「豪華列車」だった登場時から、全国に

特急網が形成された昭和中期を経て、現在の多種多様な「特急」に対応する「便利な列車」になるまでの「特急ヒストリー」をコーナーに分けて紹介。「時代と共に駆けろ」特急列車」では特急誕生以来の歴史を、各時代を象徴する特急を中心に、模型や写真、資料などで紹介。「華麗なる「特急列車」」では大正・昭和期に活躍した客車特急、高度経済成長期に活躍した電車特急、現在活躍するトワイライトエクスプレス等の三つに焦点を当てて車両や時代背景、サービスなどを紹介。「私鉄特急いろいろ」ではパノラマビューや車内の居住空間のクオリティやで高い全国の主な私鉄特急を、写真や路線図などで紹介。展示予定の資料は、特急「軍事」（複製）「燕」トレンマーク、戦後の機関士制服（複製）、キハ81型ディーゼルカー模型（縮小1/10分の1）、客車特急の食堂車制服（複製）、「トッ

イライトエクスプレス」制服、特急「こだま」トレンマーク、JR特急・私鉄特急のNゲージ模型、写真など。一月二十七日まで▽他に「クリスマス飾り付け」（高さ四メートルのツリーなど。十一月二十四日まで）、「鉄道で使う」はかる道具たち（十一月二十四日まで）、「鉄道友の会阪神支部クラシック部会写真展」（関西の鉄道をテーマに八十数点。一月十九日まで）＝写真上は田上順彦氏撮影「京阪8081（旧3000系）」（京阪本線番車園付近）、下は田上耕氏撮影「京梅千ボ21型」（嵐山本線西大路二条付近、



しも▽十九時入館 月曜休館（祝日なら開館し翌火曜休、火曜も祝日なら振替休なし、春夏休みは開館、十二月二十九日～一月二日休館。高校生以上四百円、四歳～中学生百円。JR弁天町駅すぐ。 ☎六五八一・五七七二。

●関西フィルハーモニー管弦楽団「華麗なる二ユーイヤーコンサート！」 同楽団の人気シリーズ「ミート・ザ・クラシック」の二十六回目。

大阪出身のマリンバ奏者が現代日本作曲界の重鎮の最新作を世界初演、シュトラウス・ファミリーの名作を圧倒的なオーケストラの迫力で。第一部「柳慧が種合睦子に捧げた最新作、世界初演！」ではアンダーソン「舞踏会的美女」、一柳慧「マリンバ協奏曲」種合睦子のために（世界初演）を、第一部「新春を彩る華麗なるウィンナ・ワルツ&ポルカ」ではヨハン・シュトラウス2世「ワルツ」南国のぼら、ヨゼフ・シュトラウス・ポルカ・シュネル「憂いもなく」、同：ワルツ「天体の音楽」、同：ポルカ・マズルカ「とんぼ」、ヨハン・シュトラウス2世「ワルツ」ウィーンの森の物語」を演奏。指揮は藤岡幸夫（さちお）（©SHINNY



AMAGISHI 284C8580）、マリンバ独奏は種合睦子同下。一月十九日（土）十五時からいずみホール（JR大阪城公園、地下鉄OBP）で。一階席四千円、二階席三千円、学生席二千円。無料託児サービス申込締切二月七日（先着三千名）。 ☎六五七七・三三八一。

●港図書館

①年末年始休暇のお知らせ 十二月二十八日（金）～一月四日（金）は年末年始のため休館。十月二十八日（金）午後五時～一月四日（金）午前九時は返却ポストの使用も不可②図書展示「芸術に親しむ本」展 十二月二十七日（木）まで開催中。展示リストあり③図書展示「大大阪」展 大正後期から昭和初期にかけて、大阪が「大大阪」とよばれていた時代に関する本を展示。一月五日～二月二十八日④おたのしみ会 幼児を対象に毎週水曜十五時

半～十八時。絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、手遊び、わらべうたの紹介など。申込不要⑤あかちゃんのおたのしみ会 赤ちゃんと保護者を対象に毎月第一（二月は第二）金曜十一時～十一時半。赤ちゃんが絵本に親しめるよう工夫。申込不要 ☎六五七六・三三六六。

●井太町市民学習センター・井太シネマ倶楽部

『素晴らしき哉、人生！』 その題名とはおよそ正反対の、ままならない人生。「生まれてこなければ良かった...」。絶望の末、クリスマスに自殺を図ったとした主人公の前に、不思議な老人が現われた 写真は一場面。監督はフラン



ク・キャプラ。出演はジェームズ・ステュアート、ドナ・リード他。一九四八年アメリカ。モノクロ・字幕、一三分。「理不尽な出来事に見舞われてはかりの主人公の半生ほもとかしい。だから観終わった後、まさか、これほど清々しい気持ちになれるなど想像もなかった!」(Y・Nさん)。「心に残る名画を低料金で市民に」と同センターが企画したシリーズの二十六回目。一月十九日(土) 十時と十四時。各回当日先着百名。料金は一人一回六百円(前売五百円)。当日正午すぎから無料ロビーライブ予定。 〆六五七七・一四三〇。

●港近隣センター・懐かしの名画劇場『ジュラシック・パーク』 スティーヴン・スピルバーグ監督がCGを駆使して遙か昔に絶滅した恐竜たちを現代に甦らせた壮大なSFアドベンチャー大作。古代の琥珀の中の蚊から恐竜のDNAを抽出し、バイオテクノロジーによる恐竜の再生に成功。が、恐竜たちが歩き回る史上最大のテーマパークを建設中、セキユリティシステムに問題が生じ…!! 写真は一場面。出演はサム・ニール、ローラ・ダーン他。一九九三



年アメリカ。カラー・字幕・二八分。一月十一日(金) 十四時。協力金五百円▽同センターは八幡屋一・四・二〇(入舟公園隣)。問合せは 〆六五七二・一〇二〇(財)大阪市コミュニティ協会 会港区支部協議会へ。

●シネ・ヌーヴォー『蒸気機関車のある風景』『すばらしい蒸気機関車』 自主映画から商業映画まで幅広く活躍した孤高の映像作家・故高林陽一監督(一九三二―二〇二二年)が滅びゆく蒸気機関車への哀惜を込めて撮り上げたドキュメンタリー一作。『蒸気機関車のある風景』(六

五年、九一分) 写真は北へ南へ全国行脚し、

『楽しい個人作業』の果てに完成させた「六」作品をデジタルリマスターで復刻。ダイナミックな動きの仕組みや因果関係をかつてなく誠実に露出し、感動を呼ぶ。『すばらしい蒸気機関車』(一九七〇年、八三分) 写真は下は大映京都撮影所の協力で完成。盟友・大林宣彦監督が音楽を担当。自主映画には異例のオーケストラ演奏で盛り上げた。杉田靖子の歌の美しさ、機関車と対話する少女・谷口法子の可憐さも話題を呼び、全国ヒット。追悼特集「魂のシネアスト・高林陽一」(十一月二十日まで上映中)の中で十二月十九日(水)と二十日(木)の各十四時四十分から二作連続上映。当日一般千五百円(一作)。詳細は同館(地下鉄九条⑥出口歩三分) 〆六五八二・一四二六へ。



平和のため



語り継ごう

今月の語り部

せんがまりこ

千賀万里子さん(79歳、港晴) ㊦



(前まで) 昭和七年に北朝鮮で生まれた私は父が三菱の鉱山長をしていた関係で何不自由ない生活を送っていたが、敗戦で暗転。過酷な收容所生活を送った。昭和二十一年四月からの逃避行では脱走者が相次いだ、三十八度線越えに成功、親子七人は無事日本へ帰り着いた。し

かし戦争の犠牲は家族にもあった」

南方戦線で長兄餓死

次兄抑留、特攻の三兄病没

◆長兄は南方で餓死

長兄・元彌は海軍に入隊しましたが、既に死んでいたことが分かりました。戦後届いた公報には「昭和十九(一九四四)年十月十二日、ニューギニア方面にて戦死」とありましたが、遺骨を届けてくれた戦友は「実際には食べ物がなく、何千人もが自決や飢えて死んでいく中の一人やった」と教えてくれました。骨箱には髪と爪が入っていましたが、本人の物かどうかは分かりませんでした。

羊年生まれで、今生きていけば百歳くらいでしょう。父にも母にも会えず、遙かな異土で死んだ無念の思いを想像すると、可哀想でなりません。

◆次兄はシベリア抑留

次兄・朗は陸軍に入隊し、満州の奥地へ送られ、右足を骨折して傷痍軍人となりました。

終戦でシベリアへ送られ、五十六年もの過酷な抑留生活の後、昭和二十五(一九五〇)年ころ帰国。今九十四歳で健在ですが、「(負傷した時、足に)蛆が湧いてピンセットで取ったんや」などよく話していました。

◆特攻隊の三兄は病死

三兄・偉夫は陸軍に入隊し、特攻隊に志願。搭乗寸前に栄養失調から結核に罹り、病院に送られました。そこで昭和二十(一九四五)年八月十五日の終戦を迎え、同日二十日に三重県江村の実家へ帰還。父母も祖父母もその時いなかった。曾祖母が一人で看病し、村の人たちが農園から桃を採ってきて食べさせるなどの世話をしてくれたそうですが、他に碌な食べ物もなく、医者もおらず、寝たきりのまま、帰郷から五日後の八月二十五日に亡くなりました。教師になることを夢見、教員免許も持っていただけに、さぞ無念だったろうと思います。

◆戦後も波瀾万丈だった

戦後、私は父の実家(四日市市近くの江村)から中学校に通い、卒業後は洋裁・和裁・お茶などの花嫁修業を積んだ後、昭和三十三年(一九

五〇年に結婚しました。しかしその後は、夫の浮気や事業（製陶業）の浮き沈み、協議離婚、植木鉢センターを経営しながらの子育て、ヤクザと渡り合つての倒産処理、夫との復縁、三男の事故死、ディスカウントショップ開業と経営の転変、交通事故による入院生活等々、いわば波瀾万丈の人生を歩んできました。

現在、父母は既になく、夫も平成十八（二〇〇六）年に他界。廃業後は長男・次男の仕事の浮沈を気にながらの国民年金生活になりま



→戦後は夫と共に倒産などの困難を乗り越えて生きてきた（写真は結婚当時）

したが、額が余りにも少ないため、切り詰めた生活を余儀なくされています。

◆戦争ほど惨いものない

このように色んなことがあつた半生ですが、振り返つて、やはり引き揚げ体験の辛さが一番心に残っています。中でも、故国を再び見るこ
となく途上で倒れた方たち、また親族の亡骸を置き去りにせざるを得なかつた遺族の方々の悲痛極まる心境を思つて、戦争の理不尽さに改めて胸が震えます。

一人の兄の戦死も辛い思い出です。特に、父にも母にも会えぬまま遙かな南の地で飢えの苦悶のうちに絶命した長兄の無念を思つて、可哀想で可哀想で堪りません。戦争さえなかつたら、その後も家族や友人に囲まれて、長く幸せに暮らしていたことでしょう。

今、私たちがこうして何不自由なく暮らしているのも、いつした多くの犠牲があつたからこそです。あの戦争から何年経つて、そしてた方たちへの感謝、そして戦争ほど惨いものはないといつたことを、決して忘れてはならないと強く思います。

◆平和で温かな社会に

同時に、戦後八十年経つてもなお世界のあちこちで戦争や紛争が絶えない現実に対しては心から悲しく残念に思います。また平和になつたとはいえ、貧富の差が戦前にも増して激しくなり、特に今日の日本を築いた高齢者をいじめ
るかのような政治が大手を振っている現状には「こんな世の中にするためにあの人たちは死んでいったのか」と、とても複雑な思いに駆られます。子や孫やひ孫のため、そして全ての次世代のために、平和であると共に、誰もが笑顔で生きられる温かな社会であってほしいと心から願っています。

（終わり）

**戦争体験
平和のために
次世代へ!**

昭和20年の豊中空襲で親戚が全滅した悲惨な光景は今も繰り返し夢に現われます。敗戦の辛さも言葉にできないほどでした。今はゲートボール仲間と楽しい余生を過ごしていますが、この平和が続くようにとの願いから、体験を聞き取って頂きました。（90代女性）

400字（原稿用紙1枚）で
千円が標準料金です。

★文書全般の代筆も承ります★

港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636